



2420 Digital Telephone
ユーザーズガイド
リリース 4

555-250-701JA
第1版
2004年11月

注意

印刷の時点で、本書の内容が完全で、正確であることを保証できるよう最大限の努力を払っていますが、情報は予告なく変更されることがあります。

保証

Avaya Inc. では、この製品に対する限定保証を行っています。限定保証の詳細については、販売契約を参照してください。保証期間中の Avaya の標準保証の内容および本製品のサポートに関する情報については、以下の Web サイトを参照してください。

<http://www.avaya.com/support>

補聴器との互換性

自動ゲインコントロールが使用不可にされている場合、2400 シリーズの電話機には補聴器互換性 (HAC) があるため、すべてのユニットには「HAC」と印刷されています。

不正通話の防止

不正通話とは、許可のない者（企業の従業員、代理店、下請け業者、および代理人でない者など）による通信システムの無断使用です。システムの利用にあたっては、不正通話が行われる危険性があり、不正通話が行われた場合には、通信サービスについて相当額の追加料金が発生する可能性がある点に注意してください。

Avaya による不正通話の介入

不正通話が行われている疑いがあり、技術的なサポートが必要な場合は、テクニカルサービスセンタの不正通話介入ホットライン 1-800-643-2353 までご連絡ください（米国またはカナダの場合）。

免責事項

Avaya は、発行済みの本書に対するその内容の変更、追加、削除については、それが Avaya が実行したものでない限り責任を負いません。顧客またはエンドユーザーは、本書の内容に対して自らが実行した変更、追加、削除の範囲内において、それらの実行結果に起因または関連する権利の主張、訴訟、要求、審判を、Avaya、Avaya の代理店、下請け業者、および従業員に対していっさい行わないことに同意するものとします。

サポートが必要になった時の連絡先

サポートが必要な場合の各問い合わせ先については、以下の Avaya のサポート Web サイトを参照してください。

<http://www.avaya.com/support>

サービスが提供されている地域に応じて、以下のいずれかの手順に従ってください。

- 米国内の場合は、「Escalation Contacts」をクリックします。次に、必要なサポートの種類に応じたリンクをクリックします。
- 米国外の場合は、「Escalation Contacts」をクリックします。次に、「International Services」をクリックすると、各地域の主要問い合わせ先のリストが表示されます。

通信セキュリティの提供

音声、データ、ビデオ通信の通信セキュリティとは、あらゆる種類の侵入、つまり、何者かによる企業の通信装置の無断使用や悪意のあるアクセス、使用を防止することです。

企業の「通信装置」には、Avaya 製品と、Avaya 製品を通じてアクセスできるその他の音声/データ/ビデオ装置(つまり「ネットワーク装置」)の両方が含まれます。

「部外者」とは、企業の従業員、代理店、下請け業者、または代理人ではない者です。一方「悪意がある者」とは、悪意を持ってまたはいたずらを目的として通信装置にアクセスしようとする者を指しますが、アクセス許可を受けている者である場合もあります。

そのような侵入は、次のような理由で、同期（時分割多重化および回線ベース）または非同期（キャラクタ、メッセージ、またはパケットベース）の装置やインターフェースに対して、またはそれらを通じて行われます。

- 利用（アクセスした装置の特別の機能など）
- 窃盗（知的財産、資産、または料金機能へのアクセスなど）
- 盗聴（人のプライバシーの侵害）
- いたずら（問題を発生するが実害はない、不正な変更）
- 実害（有害な変更、データの損失や変更、動機や意図は問わない）

システムや、ネットワーク装置で接続された装置には、許可のない侵入が行われる危険性があるという点に注意してください。また、そのような侵入があった場合は、人/データのプライバシー、知的財産、有形資産、財源、労働コスト、法的コストを始めとしたさまざまな損害を企業がこうむる可能性があることをご了承ください。

企業における通信セキュリティの責任

システムとネットワークで接続された装置のセキュリティを確保するうえでの最終的な責任は、Avaya の顧客システム管理者、ユーザー企業が契約している通信業者、およびユーザー企業のマネージャにあります。個々の義務を遂行するにあたっては、これまで蓄積してきた知識および以下を始めとしたリソースに基づいてください。

- 設置用ドキュメント
- システム管理ドキュメント
- セキュリティドキュメント
- ハードウェア/ソフトウェアベースのセキュリティツール
- ユーザー企業と通信業者との共有情報
- 通信セキュリティの専門家

通信装置への侵入を防止するにあたっては、ユーザー企業とユーザー企業の通信業者が以下のプログラムと設定を慎重に行う必要があります。

- ユーザー企業の Avaya 製通信システムと通信業者のインターフェース
- ユーザー企業の Avaya 提供ソフトウェアアプリケーションと基底となっているハードウェア/ソフトウェアプラットフォームおよびインターフェース
- 上記以外で、ユーザー企業の Avaya 製品にネットワーク接続されている各装置

標準規格への準拠

Avaya Inc. は、本装置の無許可の変更、または Avaya Inc. 指定以外の接続ケーブルや装置への交換、接続が原因となったラジオやテレビの干渉については、責任を負いません。このような許可のない変更、交換、接続による干渉は、ユーザーの責任で解決する必要があります。ユーザーには、Avaya Inc. が明示的に承認していない変更や改良を行うと、本装置利用に関するユーザーの権利が取り消される場合があることについて、連邦通信委員会 (FCC) 規則のパート 15 に従った警告がなされています。

製品安全規格

本製品は、該当する以下の国際的な製品安全規格に準拠しています。

Compliance with IEC for Electrical Equipment (IEC 電気機器安全規格適合性) (IEC60950-1) CB-96A に記載された、関連するあらゆる各国差分規格を含む Safety of Information Technology Equipment (IT 機器の安全性) IEC 60950 第 3 版、または IEC 60950-1 第 1 版。

Safety of Information Technology Equipment (IT 機器の安全性) CAN/CSA-C22.2 No. 60950-00 / UL 60950 第 3 版、または CAN/CSA-C22.2 No. 60950-1-03 / UL 60950-1。

Safety Requirements for Customer Equipment (顧客端末の安全性要件)、ACA 規格 (TS) 001 - 1997。

適宜、メキシコ国家規格 NOM 001 SCFI 1993、NOM SCFI 016 1993、NOM 019 SCFI 1998 のいずれかまたは 2 つ以上。

電磁両立性 (EMC) 規格

本製品は、以下の国際的な EMC 規格および関連するすべての各国差分規格に準拠しています。

Limits and Methods of Measurement of Radio Interference of Information Technology Equipment (IT 機器の無線干渉に関する制限と測定方法)、CISPR 22:1997 および EN55022:1998。

Information Technology Equipment (IT 機器) - Immunity Characteristics (イミュニティ特性) - Limits and Methods of Measurement (制限と測定方法)、CISPR 24:1997 および EN55024:1998。以下を含む。

- Electrostatic Discharge (静電気放電) (ESD) IEC 61000-4-2
- Radiated Immunity (放射イミュニティ) IEC 61000-4-3
- Electrical Fast Transient (電気的ファストトランジエント) IEC 61000-4-4
- Lightning Effects (雷の影響) IEC 61000-4-5
- Conducted Immunity (伝導イミュニティ) IEC 61000-4-6
- Mains Frequency Magnetic Field (電源周波磁場) IEC 61000-4-8
- Voltage Dips and Variations (電圧下落および変動) IEC 61000-4-11

Power Line Emissions (電気系統放射) IEC 61000-3-2: Electromagnetic compatibility (電磁両立性) (EMC) - パート 3-2 制限 - 高調波電流放射に関する制限

Power Line Emissions (電気系統放射) IEC 61000-3-3: Electromagnetic compatibility (電磁両立性) (EMC) - パート 3-3: 制限 - 公衆低電圧源システムにおける電圧変化、電圧変動およびフリッカの制限

連邦通信委員会による声明

パート 15 :

注 : この装置は、クラス B のディジタルデバイスの制限に準拠しており、FCC 規則のパート 15 に従っていることがテストされ、確認されています。この制限は、装置を商業環境で使用したときの有害な干渉から適切に保護するためのものです。この装置は、無線周波数エネルギーを発生、使用、および放射することがあり、マニュアルに従って設置、使用されなかった場合は、無線通信に対して有害な干渉を発生することがあります。この装置を住宅地で使用すると、有害な干渉を引き起こすことがあります。この場合には、使用者は自己負担において適切な対策を講じるよう要求されます。

パート 68 : 応答監視信号

適切な応答監視信号を使用しない方法でこの装置を動作させることは、パート 68 の規則に違反します。この装置は、次の場合に公衆回線網に応答監視信号を返します。

- 呼を受けた電話機が応答した場合
- 近くにいた者が応答した場合
- 企業内システムなどの構内装置 (CPE) ユーザーが設置した録音アナウンスに配信された場合

この装置は、公衆電話交換網に戻されるすべての DID コールで応答監視信号を返します。許可されている例外は次のとおりです。

- 呼に応答しない場合
- ビジートーンを受信した場合
- リオーダートーンを受信した場合

Avaya は、ユーザーが登録済みの装置からアクセスコードを使用して州間の交換サービスプロバイダへアクセスできることを保証します。大口の通話業者がこの装置に変更を加えてダイヤルコードへのアクセスをロックすることは、1990 年の Telephone Operator Consumers Act に違反します。

カナダ通信省 (DOC) 幷涉情報

このクラス B デジタル装置は、カナダの ICES-003 に準拠しています。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada. (このクラス B デジタル装置は、カナダの ICES-003 に準拠しています。)

この装置は、カナダ産業省の端末装置に関する技術的な仕様を満たしています。これは登録番号によって確認されます。登録番号の前の略語 IC は、登録が準拠に関する宣言に基づいて行われたことを表すもので、カナダ産業省の技術仕様を満たしていることを示しています。カナダ産業省がこの装置を承認していることを示すものではありません。

設置および修理

この装置を設置する前に、ユーザーは現地通信業者の施設への接続が許可されていることを確認する必要があります。また、この装置は、許容される接続方法を使用して設置する必要があります。上記の条件への準拠により、場合によってはサービスの劣化が生じる可能性があることに注意してください。

認証装置の修理は、供給業者指定の代行者によって調整されなければなりません。装置または装置の不具合に対してユーザーが修理、改良を行うと、通信会社が装置の取り外しを要求する場合があります。

準拠に対する宣言

米国 FCC パート 68 自己適合宣言 (SDoC)

米国所在の Avaya Inc. は、本書に記載されたラベル ID 番号 TIA TSB-168 の装置が FCC 規則 47 CFR パート 68 および端末接続管理協議会 (ACTA) が採択した技術基準に準拠していることをここに保証します。

また、本書に記載されたハンドセット付きの Avaya 端末装置は、補聴器への対応を定義した FCC 規則のパラグラフ 68.316 に準拠しており、補聴器に対応しているとみなされています。

米国の責任者が署名した SDoC のコピーが必要な場合は、お近くの担当者までご連絡ください。または、以下の Web サイトでもご覧いただけます。

<http://www.avaya.com/support>

Avaya のすべてのメディアサーバおよびメディアゲートウェイは FCC パート 68 に準拠していますが、その多くは、SDoC プロセスが利用可能になる前に登録されたものです。Avaya の全登録製品を網羅したリストについては、以下の Web サイトを参照してください。

<http://www.part68.org>

ここで、製造者に「Avaya」を指定して検索してください。

欧洲連合の準拠に関する宣言



Avaya Inc. では、本書に明記された「CE」(Conformité Européenne) マーク付きの装置が EMC 指令 (89/336/EEC) および低電圧指令 (73/23/EEC) を含む EU 無線機器および電気通信端末機器指令 (1999/5/EC) に準拠していることを宣言します。

これらの準拠に関する宣言 (DoC) のコピーについては、販売担当者までお問い合わせください。または、以下の Web サイトでもご覧いただけます。

<http://www.avaya.com/support>

日本

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると、電波障害が発生する場合があります。この場合、ユーザーが是正措置を行うよう要求されることがあります。

本書およびその他のドキュメントの発注先：

電話 : Avaya 出版センター
電話 1.800.457.1235 または 1.207.866.6701
FAX 1.800.457.1764 または 1.207.626.7269

郵便 : Globalware Solutions
200 Ward Hill Avenue
Haverhill, MA 01835 USA
ATTN: Avaya Account Management

電子メール : totalware@gwsmail.com

最新版ドキュメントについては、下記の Web サイトをご覧ください。

<http://www.avaya.com/support>

目次

| | |
|--------------------------------------|----|
| 概要 | 7 |
| コールセンターユーザーのサポート | 8 |
| オプションデバイスのサポート | 9 |
| 安全について | 10 |
| 2420 Telephone のコンポーネント | 10 |
| 2420 Telephone ユーザーチェックリスト | 12 |
| ホーム画面 | 13 |
| ホーム画面ページのナビゲート | 14 |
| コールアピアランス回線と発信者表示 | 15 |
| ステータスアイコン | 16 |
| 呼処理機能 | 17 |
| 応答 | 17 |
| 発信 | 18 |
| 短縮ダイヤル | 18 |
| 保留 | 18 |
| リダイヤル | 19 |
| スピーカホン | 19 |
| 転送 | 20 |
| 会議通話 | 21 |
| メッセージの再生 | 22 |
| メッセージ | 22 |
| 短縮ダイヤル画面 | 22 |
| 短縮ダイヤル画面での操作 | 24 |
| 短縮ダイヤルリストの管理 | 25 |
| 短縮ダイヤルエントリへのクイックアクセス | 25 |
| 短縮ダイヤルエントリの編集 | 25 |
| 文字の入力 | 26 |
| ダイヤリングにおける決まり | 26 |
| 短縮ダイヤルエントリの追加 | 26 |
| 短縮ダイヤルエントリの編集 | 28 |
| 短縮ダイヤルエントリの削除 | 29 |
| コールログ画面 | 29 |
| コールログサマリ画面 | 30 |
| コールログサマリ画面での操作 | 32 |
| コールログ詳細画面 | 33 |
| コールログ詳細画面での操作 | 34 |
| コールログの使用 | 35 |
| コールログの表示 | 35 |
| コールログを使用した呼の発信 | 35 |
| 短縮ダイヤルリストへのコールログエントリの保存 | 36 |

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| コールログエントリの削除 | 36 |
| ラベル操作画面 | 37 |
| ラベル操作画面での操作 | 38 |
| 回線 / 機能ボタンのラベルの管理 | 39 |
| ラベルの編集 | 39 |
| システムラベルの表示 | 40 |
| システムラベルのリストア | 41 |
| オプション画面 | 42 |
| オプション画面での操作 | 43 |
| ユーザー設定オプションの選択 | 43 |
| 着信音パターン | 43 |
| 着信表示（着信時ランプ点滅） | 44 |
| 電話画面表示 | 45 |
| 画面コントラスト | 46 |
| コールログセットアップ（コールログ設定） | 46 |
| 表示モード（コールセンターモード） | 47 |
| 消去 | 48 |
| 短縮ダイヤル表示維持画面 | 49 |
| 自己診断（テスト） | 50 |
| 言語 | 51 |
| 交換機で設定される特定機能の使用 | 52 |
| システム短縮ダイヤル / 自動ダイヤリング（AD） | 52 |
| 不在転送 | 53 |
| コールパーク | 53 |
| コールピックアップおよび内線指定コールピックアップ | 54 |
| Leave Word Calling（LWC） | 55 |
| 離席機能（SAC） | 56 |
| ウィスパーページ | 56 |
| 表示機能の使用 | 58 |
| コールタイマーおよびタイマー | 58 |
| ディレクトリ | 58 |
| 発信者確認 | 59 |
| トーンとその意味 | 60 |
| 索引 | 63 |

概要

2420 Digital Telephone は、Avaya Communication Manager と呼ばれる交換機・呼処理システムで使用するマルチ回線デジタル電話です。2420 Telephone には、以下をはじめとした、ユーザーが簡単に操作できる便利な特徴と機能があります。

- **読みやすい表示画面** — 次のものを表示できます。
 - 回線 / 機能ボタンラベルのカスタマイズ
 - コールログ
 - 短縮ダイヤルリスト
 - コール ID 情報
- **フレキシブルな回線/機能ボタン表示** — 8個のボタンと12個のボタンのラベルフォーマットが選択可能で、紙のボタンラベルが必要なくなります。オプションのEU24拡張モジュールでは、ご使用の呼処理システム用に、最大24の追加回線 / 機能ボタンを表示できます。[9ページの「オプションデバイスのサポート」](#)を参照してください。
- **カスタマイズ可能なインターフェース** — 次のことができます。
 - 個人用短縮ダイヤルリストの作成
 - コールログに表示するコールタイプの指定
 - 電話機の着信音パターンの選択
 - 回線 / 機能ボタンラベルのカスタマイズ
 - 2420 Telephone の表示言語の選択

注:

画面の文字は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、または日本語（カタカナ）で表示できます。

- **プログラム可能な短縮ダイヤルリスト** — 最大104のエントリを保存できます。
- **プログラム可能なコールログ** — 最大100のエントリをサポートします。着信呼の場合、各エントリには発呼者の名前と番号（利用可能な場合）が含まれます。コールログでは、記録および表示するコールタイプを指定することもできます。コールログには、発信呼、着信応答呼および未応答呼のエントリを含めることができます。
- **カスタマイズ可能な回線/機能ボタンのラベル** — ご使用の呼処理システムでプログラムされた回線/機能ボタンのラベルに変更できます。各ラベルには、最大13文字を表示できます。

2420 Telephone を設置すると同時に、ご使用の呼処理システムが本製品を認識します。システム管理者が 2420 Telephone を正しく設定していれば、ユーザーのロケーションにある別のオフィスに 2420 Telephone を移しても、そのままお使いになれます。再設定や技術サポートを待つ必要はありません。

コールセンターユーザーのサポート

コールセンターユーザーの要求を満たすため、2420 Telephone には次の機能が提供されています。

- **コールセンターモード動作** — オプション画面からアクセスするこの設定では、標準表示画面の回線 / 機能ボタンのラベルを 8 つから 12 に変更します。このモードを選択すると、標準モードではソフトキーのラベルに使用されている表示画面の下端に、短縮ラベルが付いた 4 つの回線 / 機能ボタンが追加されます。
- **各種ヘッドセットとの互換性** — ヘッドセットインターフェースは、次の「H」で始まるヘッドセット製品および機器に対応しています。

ヘッドセット製品

- Starset top H31
- Mirage top H41
- Mirage top H41N
- Supra Monaural top H51
- Supra Monaural NC top H51N
- Supra Binaural top H61
- Supra Binaural NC top H61N
- Encore Monaural Voice Tube H91
- Encore Monaural NC top H91N
- Encore Binaural Voice Tube H101
- Encore Binaural NC top H101N
- Tristar Voice Tube top H81
- Tristar Noise Canceling top H81N
- DuoSet (Supra Starter) Voice Tube H141 Headband only
- DuoSet (Supra Starter NC) Noise Canceling top H141N

ヘッドバンドのみ

- DuoSet (Earset Starter) Voice Tub top H141 イヤホンのみ
- DuoSet (Earset Starter NC) Noise Canceling top H141N
イヤホンのみ
- DuoSet (Starter Special VT) Voice Tube top H141
ヘッドバンドおよびイヤホン
- DuoSet (Starter Special NC) Noise Canceling top H141N
ヘッドバンドおよびイヤホン

ベースユニット

- M12LUCM Modular Base Unit

アダプタコード

- HIC-1 の「H」で始まるヘッドセットアダプタコード

コードレスヘッドセット製品 / ベースユニット

- LKA 10 Cord Free Headset (900 MHz RF)

コードレスヘッドセットアダプタ

- MIP-1 コードレスヘッドセットアダプタ

- **グループ聴取機能のサポート** — この機能がプログラムされている場合、2420 Telephone のハンドセット（またはヘッドセット）とスピーカーを同時に使用できます。ヘッドセットを使用して顧客サポートを行っている間、その会話をスーパーバイザーがスピーカーで聞くことができます。2420 Telephone に接続されているモジュールによっては、この機能が影響を受ける場合があります。詳細については、[19 ページの「スピーカホン」](#) を参照してください。
- **録音機能（オプション）** — 顧客への応対中に会話を記録できます。この機能には、「[オプションデバイスのサポート](#)」に記載されている 20A スタンドと 201A モジュールが必要です。

オプションデバイスのサポート

2420 Telephone の機能を拡張するオプションデバイスをご利用できます。次のオプションデバイスがあります。

- **20A スタンド** — 2420 Telephone には、デスクトップ設置または壁掛け用のコンバティブルスタンドが装備されています。200A または 201A モジュールを使用する場合は、このコンバティブルスタンドを 20A スタンドに取り替える必要があります。
- **200A アナログ(U.S.) 補助インターフェースモジュール** — このモジュールは標準チップ/リング機能を提供するもので、これを使用するとファックス機などのアナログ機器を 2420 Telephone に接続できます。
- **201A レコーダインターフェースモジュール** — このモジュールを使用して、電話の会話を記録できます。さらに、このモジュールによって、20A スタンドのジャックで 2 つのヘッドセットを使用できるようになります。
- **EU24 拡張モジュール** — このモジュールは、ご使用の呼処理システム用にプログラムした最大 24 の追加回線 / 機能ボタンを表示できます。ボタンは 2 列で表示され、EU24 表示画面には一度に 1 列づつ表示されます。

詳細については、各デバイスの付属資料を参照してください。

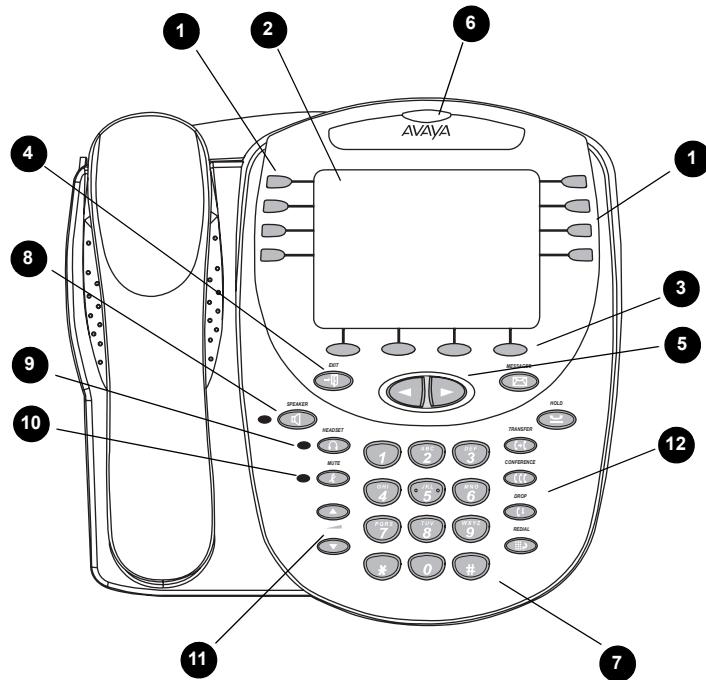
安全について

2420 Telephone は、品質および製品安全規格に関する業界標準に準拠して製造されています。本製品をご使用になるときは、推奨される安全予防措置に従って、火災、感電および傷害の危険性を軽減してください。本製品に同梱されている『2420 Installation and Safety Instructions』を参照してください。

2420 Telephone のコンポーネント

[図 1](#) を参照して、2420 Telephone の画面表示、ボタンおよびプログラム可能な機能の理解にお役立てください。

図 1: 2420 Telephone のコンポーネント



[表 1](#) に、[図 1](#) で示した 2420 Telephone のコンポーネントについて説明します。

以下の項目は、[図 1](#) の番号に対応します。

表 1: 2420 Telephone のコンポーネント

| | |
|--|--|
| 1) 回線 / 機能ボタン — 着信回線 / 発信回線、およびプログラムされた機能にアクセスするために使用します。下線は、現在選択されている回線（コールアピアラーンス回線）を示します。 | 7) ダイヤルパッド — 12 個のボタンで構成される、電話番号をダイヤルするための標準的なボタンパッド。 |
| 2) 表示画面 — コールアピアラーンス回線のステータス、通話情報、Avaya コールサーバが提供する情報、ホーム画面、短縮ダイヤル画面、コールログ画面、オプション画面が表示されます。 | 8) SPEAKER ボタン  — 内蔵された双方向スピーカホンにアクセスするために使用します。スピーカホンがアクティブなときは、このボタンに対応するライトが点灯します。 |
| 3) ソフトキー — 特定の機能を実行します。使用できる機能と対応するソフトキーのラベルは、表示されている画面によって変わります。 | 9) HEADSET ボタン  — 2420 Telephone に接続されているヘッドセットをアクティブにするために使用します。ヘッドセットがアクティブなときは、このボタンに対応するライトが点灯します。 |
| 4) EXIT ボタン  — ホーム画面の最初のページに戻ります。 | 10) MUTE ボタン  — ハンドセット、ヘッドセットまたはスピーカのマイクロфонをオフにします。ミュート機能がアクティブになっていると、対応するライトが点灯し、通話の相手側にこちら側の声が聞こえなくなります。 |
| 5) 矢印キー  — 画面のページ切り替え、コールログエントリおよび短縮ダイヤルエントリの切り替え、データ入力時のカーソルの移動に使用します。 | 11) 音量コントロールボタン — スピーカ、ハンドセット、ヘッドセット、または着信音など、使用中のコンポーネントの音量を調整するために使用します。 |
| 6) メッセージランプ — ボイスメールボックスにメッセージが届くと、このランプが点灯します。着信時ランプ点滅オプションを有効にすると、このランプが点滅して着信呼を知らせます。メッセージを再生するには、  を使用します。 | 12) 呼処理ボタン — 呼処理の操作用。詳細については、 17 ページの「呼処理機能」 を参照してください。 |

2420 Telephone ユーザーチェックリスト

本書の以降のページには、2420 Telephone の特定の画面、機能およびキーを使用する手順を記載します。以下の表に、ユーザーが実行できる各操作について説明しているセクションを示します。

| 目的 | 参照先 |
|---|---|
| 回線 / 機能ボタン表示について理解する | 13 ページの「ホーム画面」 |
| コールセンターモードを有効にして回線 / 機能ボタンのレイアウトを変更する | 47 ページの「表示モード（コールセンターモード）」 |
| 電話の応答と発信、保留、転送、電話番号のリダイヤル、会議通話のセットアップ | 17 ページの「呼処理機能」 |
| 個人用ディレクトリと呼処理システムのディレクトリ機能について理解する | 22 ページの「短縮ダイヤル画面」 |
| 短縮ダイヤルリストを作成および管理する | 25 ページの「短縮ダイヤルリストの管理」 |
| 短縮ダイヤルを使用して電話をかける | 17 ページの「呼処理機能」 |
| 回線 / 機能ボタンのラベルをカスタマイズする | 39 ページの「回線 / 機能ボタンのラベルの管理」 |
| コールログサマリ画面とコールログ詳細画面について理解する | 29 ページの「コールログ画面」 |
| デフォルトのコールログ設定を変更する | 46 ページの「コールログセットアップ（コールログ設定）」 |
| コールログに保存された情報を表示または更新する | 35 ページの「コールログの使用」 |
| コールログを使用して電話をかける | 35 ページの「コールログの使用」 |
| ボイスメールメッセージを再生する | 22 ページの「メッセージの再生」 |
| ランプおよび表示画面コンポーネントのステータスをチェックする | 50 ページの「自己診断（テスト）」 |
| デフォルト言語、着信音パターン、画面コントラストおよびその他の各種オプション設定を変更する | 43 ページの「ユーザー設定オプションの選択」 |
| ユーザー設定オプションを消去してデフォルト設定をリストアする | 48 ページの「消去」 |

ホーム画面

ホーム画面には 3 つのページがあり、次のものを表示します。

- 使用可能な回線 / 機能ボタン
- 発信者情報
- 現在の日付と時刻
- ソフトキー
- Avaya 呼処理システムが提供する情報

通常は、ホーム画面を使用して標準の呼処理を行います。2420 Telephone が標準表示モードで動作しているときは、ホーム画面のページそれぞれに、ページに 8 つの回線 / 機能ボタンが表示されます。[図 2](#) を参照してください。

注:

コールセンターモードでは、ホーム画面の最初の 2 つのページに、12 の回線 / 機能ボタンのラベルが表示されます。ページ 1 とページ 2 には、ソフトキーのラベルより短いラベルが付いた 4 つの回線 / 機能ボタンが表示されます。ソフトキーのラベルは、コールセンターモードのホーム画面のページ 3 に表示されます。コールセンターモードについては、[47 ページの「表示モード（コールセンターモード）」](#) を参照してください。

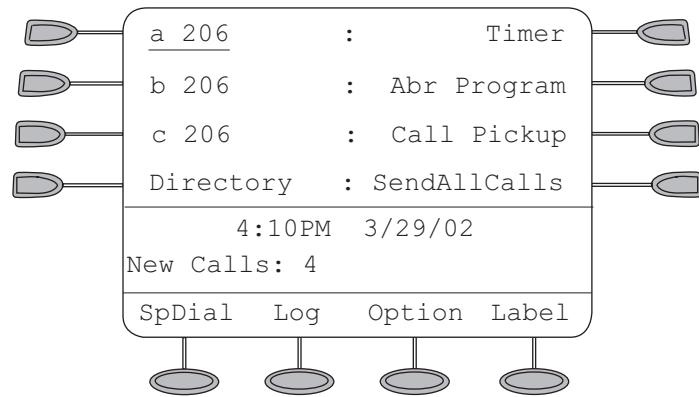
日付と時刻の情報は呼処理システムによって提供されます。この情報は、電話機がアイドル状態のときに、回線 / 機能ボタンエリアの下に表示されます。

注:

2420 Telephone が通電されてから日付と時刻が表示されるまでに、数分かかる場合があります。停電後、あるいは 2420 Telephone を電話用のモジュラジャックに接続すると、このような状態になります。誤った日付と日時が表示される場合は、システム管理者に連絡してください。

未応答呼をログに記録するよう 2420 Telephone をプログラムすると、日付と時刻の下に未応答呼カウンタが表示されます。このカウンタには、応答していない着信呼の数が表示されます。コールログサマリ画面にアクセスしてコールログの未応答呼情報を表示すると、カウンタは 0 にリセットされます。詳細については、[29 ページの「コールログ画面」](#) を参照してください。

図 2: ホーム画面の例 — ページ 1



ホーム画面ページのナビゲート

| ホーム画面のページナビゲート | |
|----------------------|------------------------|
| 目的 | 押下するボタン |
| ホーム画面の前または次のページに移動する | それぞれ ◀ または ▶ |
| ホーム画面のページ 1 に戻る | ◀ (随時) |
| 短縮ダイヤル画面にアクセスする | [SpDial (タンショク)] ソフトキー |
| コールログサマリ画面にアクセスする | [Log (ログ)] ソフトキー |
| オプション画面にアクセスする | [Option (オプション)] ソフトキー |
| ラベル操作画面にアクセスする | [Label (ラベル)] ソフトキー |

コールアピアランス回線と発信者表示

デフォルトでは、2420 Telephone の各画面ページには、8 つの回線 / 機能ボタンがあります。コールセンターモードが有効にされると、ホーム画面の最初の 2 つのページに、12 の回線 / 機能ボタンが表示されます。

表示画面の左側の列には、2420 Telephone の左上部のボタンが上から順に表示されています。これらのボタンは回線 / 機能ボタン 1 ~ 4 とみなされます。表示画面上では、ボタンにはデフォルトラベル「a」、「b」、「c」などが付けられ、「a」は回線 / 機能ボタン 1 を表します。右側の列のボタンは 5 ~ 8 となります。コールセンターモードが有効にされると、デフォルトラベル「q」、「r」、「s」および「t」によって回線 / 機能ボタン 17 ~ 20 が表示されます。これらの回線 / 機能ボタンは、画面下部のソフトキーラベルと一緒に表示されます。

呼を受信 / 発信すると、電話機がアイドル状態のときに日付と時刻が表示される箇所に、利用可能な発信者情報が表示されます。たとえば、内線番号をダイヤルするとその番号が表示され、次に被呼者の名前と内線番号の表示に切り替わります。内線に関連する発信者情報は、呼処理システムによって提供されます。別の内線からの呼を受信すると、発呼者の名前が表示されます。システム外部からの呼を受信すると、発信者番号（利用可能な場合）、「OUTSIDE CALL」、またはトランク ID が表示されます。

常に 1 つのコールアピアランス回線が下線付きで表示されます。2420 Telephone に着信があると、該当するコールアピアランス回線にベル型のアイコンが点滅表示されます。呼に応答すると、通話中アイコンが表示されます。詳細については、[16 ページの「ステータスアイコン」](#) を参照してください。

注:

コールアピアランス回線が現在のホーム画面ページに表示されていない場合は、◀ または ▶ を使用して該当するコールアピアランス回線を見つけ、応答します。詳細については、[45 ページの「電話画面表示」](#) を参照してください。

他のソフトキー機能のいずれかをアクティブにするまで、表示画面は呼処理モードのままとなります。機能を使用した後は、◀▶ を押してホーム画面のページ 1 に戻ります。

ステータスアイコン

次の表に、2420 Telephone の回線 / 機能ボタンに表示されるアイコンについて説明します。これらのアイコンは、緑色 LED やその点滅などの機能の代わりとなります。

| ステータスアイコン | |
|---|---|
| アイコン | 定義 |
|  | 着信 着信呼が応答待ちです。 対応する可聴アラートの詳細については、 60 ページの「トーンとその意味」 を参照してください。 |
|  | アクティブ 現在、通話中の呼。 |
|  | 保留 現在、呼を保留中。 |
|  | ソフト保留 転送または会議のために呼を保留中。 |
|  | 機能 アクティブ 現在、表示画面左側に表示されている機能がアクティブ。 |
|  | 機能 アクティブ 現在、表示画面右側に表示されている機能がアクティブ。 |
|  | 機能保留 リクエストを処理中。ただし、即時使用は不可。 |

さらに、一部の機能固有アプリケーションでは、次のアイコンが表示されます。

| 機能固有アプリケーションのステータスアイコン | |
|------------------------|----------------------|
| アイコン | 定義 |
| ◆ 機能 ステータス | コールセンター Q タイム機能に使用 |
| ▲ 機能 ステータス | コールセンター AUX ワーク機能に使用 |
| ▼ 機能 ステータス | コールセンターサービスマニタ機能に使用 |

呼処理機能

このセクションの手順は、2420 Telephone に表示されたホーム画面で呼処理を実行中であることを前提としています。このセクションに記載した共通手順以外の手順については、『Overview for the Avaya Communication Manager Software』(555-233-767) を参照してください。

応答

2420 Telephone に着信があると、着信音が鳴り、該当するコールアピアランス回線にベル型のアイコンが点滅表示されます。また、発信者情報も表示されます。詳細については、[15 ページの「コールアピアランス回線と発信者表示」](#) を参照してください。

着信呼に応答するには

次の手順のいずれかを実行します。

- 別の相手と通話中でない場合、ハンドセット、ヘッドセットまたはスピーカホンを使用して応答します。スピーカホンの詳細については、[19 ページの「スピーカホン」](#) を参照してください。
- 通話中の場合は、その呼を保留にしてから着信呼に応答します。呼を保留にする手順については、[18 ページの「保留」](#) を参照してください。
- 呼出中のコールアピアランス回線がホーム画面の現在のページに表示されていない場合、◀ と ▶ を使用してページを切り替えます。ホーム画面のページ 1 に戻るには、◀ 使用します。呼出中のコールアピアランス回線が表示されたら、対応する回線ボタンを押します。

発信

2420 Telephone では、手動または自動で電話をかけることができます。

手動で電話をかけるには

1. ハンドセット、ヘッドセットまたはスピーカをオフフックにします。
2. 発信音が聞こえたら、ダイヤルパッドのボタンを押して内線番号または電話番号を入力します。

外線番号へ発信する場合、外線にアクセスするために必要な番号（「9」など）も押す必要があります。

自動で電話をかけるには

次の手順のいずれかを実行します。

-  を押して、最後にダイヤルした番号の自動ダイヤリングを行います。
- コールログにアクセスし、特定のログエントリへ発信します。詳細については、[35 ページの「コールログの使用」](#)を参照してください。
- 個人用ディレクトリの短縮ダイヤルリストにアクセスし、特定の短縮ダイヤルエントリへ発信します。[18 ページの「短縮ダイヤル」](#)を参照してください。

短縮ダイヤル

短縮ダイヤル機能では、個人用ディレクトリに保存された電話番号の自動ダイヤリングを実行できます。個人用 2420 Telephone ディレクトリを作成および管理するには、[25 ページの「短縮ダイヤルリストの管理」](#)の手順を参照してください。

短縮ダイヤル機能を使用して個人用ディレクトリのエントリに電話をかけるには

1. ホーム画面で、「SpDial (タンショク)」ソフトキーを押します。
短縮ダイヤル画面が表示されます。
2. 電話をかけるエントリの横にあるボタンを押します。目的のエントリが現在のページに表示されていない場合は、 と  を使用してエントリを切り替えます。
番号の自動ダイヤリングが行われます。

保留

保留機能は、通話に戻れるまで呼を保留にします。

呼を保留にするには

 を押します。

通話に戻るには

保留中の呼の回線ボタンを押します。

注:

システム管理者が、保留解除機能を設定している場合があります。その場合、 を押すと通話に戻ることができます。

リダイヤル

リダイヤル機能またはラストナンバーダイヤル機能は、最後にダイヤルした内線番号または外線番号の自動リダイヤリングを行います。リダイヤル機能では、最大 24 枚の番号をダイヤルできます。

最後にダイヤルした番号にリダイヤルするには

 を押します。

スピーカホン

内蔵の双方向スピーカホンを使用すると、ハンドセットを持ち上げずに呼の発信 / 応答ができます。双方向スピーカホンは、非常に雑音の多い場所では満足に機能しない場合があります。

ハンドセットを持ち上げずに発信 / 応答する、またはスピーカホンに関連する機能を使用するには

1.  を押します。
2. 呼の発信 / 応答を行うか、または選択する機能にアクセスします。
3. 必要に応じて、スピーカホンの音量を調整します。

音量を上げるには、音量コントロールボタン  を押します。音量を下げるには、音量コントロールボタン  を押します。

表示画面に、音量レベルが表示されます。8 つの音量レベルがあります。

スピーカホンの音量をさらに大きくするには、スピーカホン AGC を無効にします。スピーカホン AGC を無効にするには、オプション画面の 2 番目のページで「Speaker AGC Enabled (スピーカ AGC ヲ ュウコウ)」を「No (イエ)」に設定します。スピーカホン AGC が有効な場合、低周波信号を増やし、高周波信号を減らすことによって音量レベルが自動調整されます。スピーカホン AGC を無効にすると、低音領域の音量レベルを自動で增幅はしません。[43 ページの「オプション画面での操作」](#) を参照してください。

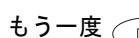
スピーカホンからハンドセットに切り替えるには

ハンドセットを持ち上げて通話します。

ハンドセットからスピーカホンに切り替えるには

1.  を押します。
2. ハンドセットを置きます。

スピーカホン通話を終了するには

もう一度  を押します。

ハンドセットまたはヘッドセットとスピーカを同時にアクティブにするグループ聴取機能（設定されている場合）を使用するには

ハンドセットまたはヘッドヘッドでの通話中に、 を押します。

注:

201A レコーダインタフェースモジュールが 2420 Telephone に接続され、20A のヘッドセットジャックを使用するように設定されている場合は、ヘッドセットとスピーカを同時にアクティブにするグループ聴取機能は使用できません。この場合、ヘッドセットとスピーカは使用できます。

転送

転送機能では、呼を自分の電話機から別の内線番号または外線番号に転送できます。

通話中の呼を別の内線に転送するには

1. 通話中に  を押します。
2. 発信音が聞こえたら、呼の転送先番号をダイヤルします。
3. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 相手に通知せずに呼を転送するには、もう一度  を押して電話を切れます。これで、転送が完了します。
 - 相手に通知してから呼を転送するには、被呼者が応答するまで待ちます。手順 4 を参照してください。
4. 被呼者が応答したら、着信があることを通知します。回線がビジーの場合、あるいは被呼者からの応答がない場合は、 を押します。その後、回線ボタンを押して保留中の通話に戻ることができます。
5. もう一度  を押して電話を切り、転送を完了します。

「Transfer Completed (テソウカンリョウ)」メッセージが表示されます。

注:

システム管理者が、Transfer-on-Hung-up 機能を設定している場合があります。その場合、 を押し、呼の転送先番号をダイヤルして電話を切ると、呼を転送できます。転送操作を途中でキャンセルするには、元の回線ボタンを押します。システムの自動保留機能がアクティブになっている場合、転送先の相手が保留のままにならないよう、 を使用して転送をキャンセルしてください。

会議通話

会議機能では、最大 6 名の通話参加者（通話者本人も含む）で電話会議を行うことができます。

会議通話に参加者を追加するには

1.  を押します。
2. 発信音が聞こえたら、会議通話に追加する相手の番号をダイヤルします。
3. 応答を待ちます。
4. もう一度  を押して、相手を会議通話に追加します。被呼者が応答しない場合、あるいは会議への参加を拒否された場合は、 を押します。これで、回線ボタンを押して保留中の通話に戻ることができます。
5. 会議通話への参加者をさらに追加する場合は、手順 1～4 を繰り返します。

保留にした呼を会議通話に追加するには

1.  を押します。
2. 発信音が聞こえたら、保留中の呼に対応する回線ボタンを押します。
3. もう一度  を押します。

会議通話に最後に追加した相手との接続を切断するには

1. 会議通話の回線ボタンが選択されていることを確認します。
2.  を押します。

メッセージの再生

メッセージ

発呼者がメッセージを残すと、メッセージランプが点灯します。メッセージを再生するには  を押し、プロンプトに従います。

注:

メッセージボタンが有効に機能するためには、システム管理者による設定が必要です。メッセージボタンが正しく機能しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。メッセージボタンのプログラミング情報については、『Administrator's Guide for Avaya Communication Manager Software』(ドキュメント番号 555-233-506) の第 21 章「Features and Technical Reference」を参照してください。

短縮ダイヤル画面

短縮ダイヤル画面を使用して、2420 Telephone の個人用ディレクトリに最大 104 の短縮ダイヤルエントリを保存できます。この画面にアクセスするには、ホーム画面で [SpDial (タンショク)] ソフトキーを押します。

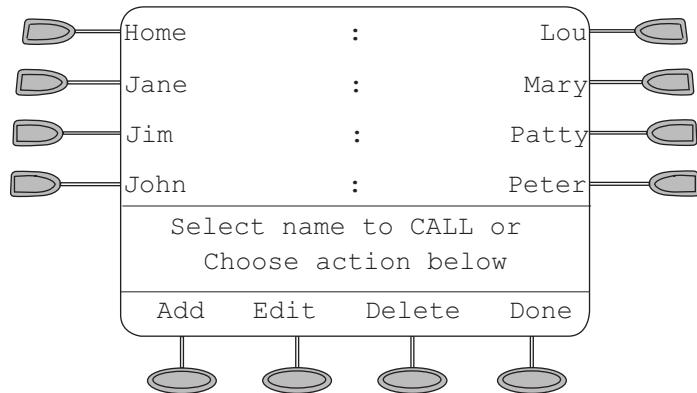
注:

頻繁にかける番号の短縮ダイヤルエントリが含まれる個人用ディレクトリは、2420 Telephone に保存されます。個人用ディレクトリは、交換機が持つディレクトリ機能とは別のものです。システムのディレクトリ機能では、システム上に登録されている他の内線ユーザーを検索できます。このディレクトリ機能は、システム管理者によって設定されます。ディレクトリ機能の詳細については、[58 ページの「表示機能の使用」](#) を参照してください。

短縮ダイヤルリストを作成すると、保存されたエントリが短縮ダイヤル画面にアルファベット順で表示されます。各ページには、8 件のエントリが表示されます。表示されたエントリに対応するボタンを押すと、この画面から直接、電話をかけることができます。短縮ダイヤルを使用した呼の発信時に、短縮ダイヤル画面が表示されたままになるよう 2420 Telephone を設定する場合は、[49 ページの「短縮ダイヤル表示維持画面」](#) を参照してください。

[図 3](#) に、短縮ダイヤル画面の例を示します。

図 3: 短縮ダイヤル画面の例



短縮ダイヤル画面では、次のこともできます。

- エントリの追加
- エントリの削除
- 個人用短縮ダイヤルリストに保存されたエントリの変更

詳細については、[25 ページの「短縮ダイヤルリストの管理」](#)を参照してください。

短縮ダイヤル画面での操作

| 短縮ダイヤル画面での操作 | |
|--|--|
| 目的 | 押下するボタン |
| 表示されたエントリに電話をかけ、現在のホーム画面に戻る | エントリに対応するボタン |
| 短縮ダイヤルエントリの次のページを表示する | ▶ |
| 短縮ダイヤルエントリの前のページを表示する | ◀ |
| インデックス機能を使用して特定のエントリを素早く見つける 注: インデックス機能の使用時は、電話機がオンフックになっている必要があります。 | ダイヤルパッドで 1 を押すと、短縮ダイヤルリストの先頭に移動します。 キー 2 ~ 9 を押すと、それぞれのキーに対応する文字で始まるエントリが表示されます。たとえば、3 を押すと、「D」の文字で始まる最初のエントリが表示されます。 |
| 短縮ダイヤルリストにエントリを追加する | [Add (ツイカ)] ソフトキー |
| 短縮ダイヤルリストに保存されている情報を変更する | [Edit (ヘンシュウ)] ソフトキー |
| 短縮ダイヤルリストのエントリを削除する | [Delete (サケジョ)] ソフトキー |
| 前に作業していたホーム画面に戻る | [Done (シュウリョウ)] ソフトキー。下記の注を参照。 |
| ホーム画面のページ 1 に戻る | ➡ (随時) |

注:

短縮ダイヤルエントリの管理操作中は、実行可能な操作に応じて、画面の下部に表示されるソフトキーが変わります。たとえば、編集画面にアクセスすると、[Add (ツイカ)]、[Delete (サケジョ)]、[Done (シュウリョウ)] ソフトキーが選択可能になります。[Edit (ヘンシュウ)] および [Delete (サケジョ)] ソフトキーは、短縮ダイヤルリストに 1 つ以上のエントリを保存するまで表示されません。

注:

短縮ダイヤル画面での操作中は、電話機のダイヤルパッドを使用してダイヤルすることはできません。

短縮ダイヤルリストの管理

短縮ダイヤル画面を使用して、個人用 2420 Telephone ディレクトリに最大 104 の短縮ダイヤルエントリを保存できます。この画面にアクセスするには、ホーム画面で [SpDial (タシュク)] ソフトキーを押します。

短縮ダイヤルリストを作成すると、保存されたエントリが短縮ダイヤル画面にアルファベット順で表示されます。各ページには、8 件のエントリが表示されます。

エントリの追加 / 削除、個人用短縮ダイヤルリストに保存されたエントリの変更ができます。また、コールログのエントリを短縮ダイヤルリストに保存することもできます。

短縮ダイヤルエントリへのクイックアクセス

短縮ダイヤルリストにアクセスしてエントリを選択、編集または削除する場合、インデックス機能を使用すると、特定のエントリを素早く表示できます。たとえば、ダイヤルパッドで 1 を押すと、リストの先頭に直接移動できます。

キーパッドのキー 2 ~ 9 を使用すると、それぞれのキーに対応する文字で始まるエントリが表示されます。たとえば、3 を押すと、「D」の文字で始まる最初のエントリが表示されます。「D」の文字で始まるエントリがない場合は、「E」の文字で始まる最初のエントリが選択されます。

短縮ダイヤルエントリの編集

編集対象の短縮ダイヤルエントリを選択すると、[Backspace (パックスペース)] 機能ボタンおよび [Clear (クリア)] 機能ボタンが使用可能になります。[Backspace (パックスペース)] 機能ボタンは、カーソルの左側にある文字を削除します。[Clear (クリア)] 機能ボタンは、選択されたフィールドのすべての文字を削除します。文字を消去せずにカーソルを左へ移動するには、◀ を使用します。たとえば、すでに保存されているエントリの電話番号にエリアコードを挿入するには、◀ を押します。文字を消去せずにカーソルを右へ移動するには、▶ を使用します。

文字の入力

ダイヤルパッドのキーを押すと、キーに関連付けられた英字が表示画面に表示されます。場合によっては、別の英字を選択するために同じキーを繰り返し押さなければならないことがあります。たとえば、「Jack」と入力するには、次のようにします。

- 5を押して「J」を入力します。最初の文字は、自動的に大文字で入力されます。その後に続く文字すべては小文字で表示されます。
- 2を押して「a」を入力します。次に、▶を押してカーソルを進めます。
- 2を連続3回押して「c」を入力します。
- 5を2回押して「k」を入力します。

次に入力する文字が、直前に入力した文字と同じキーを使用する場合、▶を使用する必要があることに注意してください。たとえば、「a」と「c」を入力するには、2のキーを使用します。

ダイヤリングにおける決まり

短縮ダイヤルの番号入力時には、以下の決まりに従うことが重要です。

- 電話番号の許容文字数は、特殊文字およびスペースを含め、最大24文字です。
- 外線電話番号の場合、外線（「9」など）にアクセスするために必要な番号を含める必要があります。
- 1.5秒の一時休止を挿入するには、[Pause (ポーズ)] ソフトキーを使用します。ページングシステムに十分な応答時間を与えるには、ポケットベルの番号に一時休止または一連の一時休止を含めると役立つことがあります。
- 電話番号のセグメント間にハイフンを挿入するには、[Hyphen (ハイフン)] ソフトキーを使用します（たとえば、「9-732-555-1212」）。ハイフンを挿入すると番号が読み取りやすくなりますが、ダイヤリングには影響しません。

短縮ダイヤルエントリの追加

2420 Telephone には、最大104の個人用短縮ダイヤルエントリを保存できます。保存されているエントリが最大数に達している場合、2420 Telephone に新しいエントリを追加する前に、既存のエントリを削除する必要があります。

個人用ディレクトリに短縮ダイヤルエントリを追加するには

1. ホーム画面で、[SpDial (タンショク)] ソフトキーを押します。

短縮ダイヤル画面が表示されます。既存の短縮ダイヤルリストがない場合、空の短縮ダイヤルリスト画面が表示されます。

2. [Add (ツイカ)] ソフトキーを押します。

名前編集画面に「Name (ナミエ)」フィールドが下線付きで表示されます。

注:

ディレクトリに保存されている短縮ダイヤルリスト件数が最大数に達している場合は、それを知らせるメッセージが表示されます。その場合、新しいエントリを追加する前に、既存のエントリを削除する必要があります。[29 ページの「短縮ダイヤルエントリの削除」](#)を参照してください。

3. ダイヤルパッドを使用して、短縮ダイヤルエントリの名前を入力します。最大 13 文字を入力できます。デフォルトでは、最初に入力した文字は大文字で表示され、それ以降の文字は小文字で表示されます。

注:

大文字と小文字を切り替えるには、[Case (シフト)] ソフトキーを使用します。名前と名字の間にスペースを挿入するには、[Space (スペース)] ソフトキーを使用します。スペースを入力すると、デフォルトによって次の文字は大文字になります。それ以降の文字は小文字で表示されます。特殊文字を入力する場合、* (アスタリスク) キーを使用すると、ピリオドとアスタリスクを切り替えることができます。# (シャープ) キーを使用すると、ハイフンとシャープを切り替えることができます。文字を消去せずにカーソルを左へ移動するには、◀ を使用します。文字を消去せずにカーソルを右へ移動するには、▶ を使用します。

4. 名前の入力が完了したら、「Number (ハンゴウ)」フィールドの左にある機能ボタンを押して、このフィールドに進みます。
5. ダイヤルパッドを使用して、この短縮ダイヤルエントリの番号を入力します。番号の許容文字数は、特殊文字およびスペースを含め、最大 24 文字です。
6. 電話番号の入力が完了したら、次の手順のいずれかを行います。
 - エントリを保存して短縮ダイヤル画面に戻るには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。
 - エントリを保存せずに操作を続けるには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
 - エントリを保存せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、➡ を押します。
7. さらにエントリを追加するには、手順 2 ~ 6 を繰り返します。

短縮ダイヤルエントリの編集

個人用 2420 Telephone ディレクトリに保存されている短縮ダイヤルエントリの情報を編集できます。

保存されている短縮ダイヤルエントリを編集するには

1. ホーム画面で、[SpDial (タンショク)] ソフトキーを押します。

短縮ダイヤル画面が表示されます。

2. [Edit (ヘンショウ)] ソフトキーを押します。

名前編集画面が表示されます。

注:

編集対象のエントリを見つけるには、◀ と ▶、またはインデックス機能を使用できます。

3. 編集対象のエントリに対応する機能ボタンを押します。

編集画面に「Name (ナミ)」フィールドが下線付きで表示されます。

4. ダイヤルパッドを使用して、短縮ダイヤルエントリの名前を編集します。最大 13 文字を入力できます。デフォルトでは、最初に入力した文字は大文字で表示され、それ以降の文字は小文字で表示されます。

注:

大文字と小文字を切り替えるには、[Case (シフト)] ソフトキーを使用します。名前と名字の間にスペースを挿入するには、[Space (スペース)] ソフトキーを使用します。特殊文字を入力する場合、* (アスタリスク) キーを使用すると、ピリオドとアスタリスクを切り替えることができます。# (シャープ) キーを使用すると、ハイフンとシャープを切り替えることができます。カーソルの左側にある文字を削除するには、[Backspace (バックスペース)] 機能ボタンを使用します。フィールド内のすべての文字を削除するには、[Clear (クリア)] 機能ボタンを使用します。文字を消去せずにカーソルを左へ移動するには、◀ を使用します。文字を消去せずにカーソルを右へ移動するには、▶ を使用します。

5. 名前の編集が完了したら、「Number (バンゴウ)」フィールドの左にある機能ボタンを押して、このフィールドに進みます。番号を編集しない場合は、手順 7 を参照してください。

6. ダイヤルパッドを使用して、この短縮ダイヤルエントリの番号を編集します。番号の許容文字数は、特殊文字およびスペースを含め、最大 24 文字です。

注:

フィールド内のテキストの末尾に移動するには、「Number (バンゴウ)」フィールドの右にある機能ボタンを使用します。フィールド内テキストの先頭に移動するには、「Number (バンゴウ)」フィールドの左にある機能ボタンを使用します。左側の列の先頭にある機能ボタンを押すと、名前編集画面に戻ります。

7. 変更し終わったら、次の手順のいずれかを行います。

- エントリを保存して編集画面に戻るには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。
- エントリを保存せずに編集画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
- エントリを保存せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、[◀] を押します。

8. 他のエントリを編集するには、手順 3 ~ 7 を繰り返します。

短縮ダイヤルエントリの削除

個人用 2420 Telephone ディレクトリに保存されている短縮ダイヤルエントリの情報を削除できます。

保存されている短縮ダイヤルエントリを削除するには

1. ホーム画面で、[SpDial (タンショク)] ソフトキーを押します。
短縮ダイヤル画面が表示されます。
2. [Delete (サケジョ)] ソフトキーを押します。
削除画面が表示されます。
3. 削除対象のエントリに対応する機能ボタンを押します。

注:

削除するエントリが現在のページに表示されていない場合は、[◀] と [▶] を使用して短縮ダイヤルリストを切り替えます。インデックス機能を使用して、エントリが含まれるページに移動することもできます。

「DELETE this entry? (コノエントリヲ サケジョシマスカ?)」プロンプトが表示されます。

4. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 選択したエントリを削除するには、[Yes (ハイ)] ソフトキーを押します。
 - エントリを削除せずに削除画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
 - エントリを削除せずにホーム画面のページ 1 戻るには、[→] を押します。
5. 他のエントリを削除するには、手順 3 ~ 4 を繰り返します。

コールログ画面

2420 Telephone では、コールログに最大 100 のエントリを保存できます。デフォルトでは、2420 Telephone は新しいすべての呼をログに記録し、日付と時刻の下に未応答呼の数を表示します。詳細については、[13 ページの「ホーム画面」](#) を参照してください。

注:

電話機の電源が遮断されると、2420 Telephone はコールログのすべてのエントリを消去します。

コールログを無効にしたり、あるいはログに記録するコールタイプを指定するには、オプション画面のログセットアップオプションを使用します。詳細については、[42 ページの「オプション画面」](#) を参照してください。

コールログ情報は、次の 2 つの画面で表示できます。

- コールログサマリ画面
- コールログ詳細画面

コールログサマリ画面

ホーム画面の [Log (ログ)] ソフトキーを押すと表示されるコールログサマリ画面には、次のコール ID 情報が表示されます。

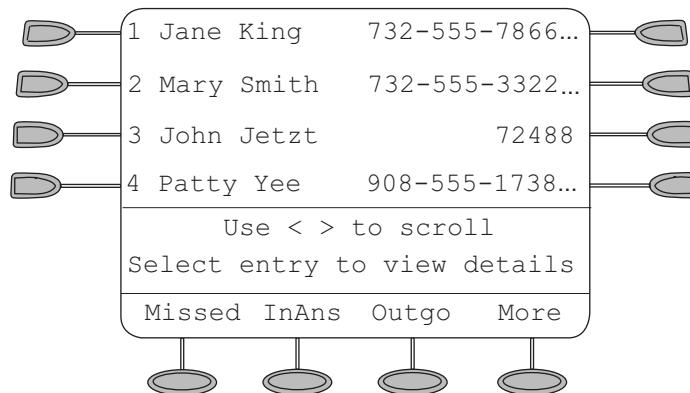
- **着信呼の場合** — 発呼者の名前と電話番号（これらの情報が呼処理システムで利用可能な場合）。発呼者の名前が 16 文字を超える場合は、省略されます。
- **発信呼の場合** — 2420 Telephone のダイヤルパッドで入力した電話番号。短縮ダイヤルリストを使用して電話をかけた場合は、短縮ダイヤルエンtryの名前と番号がログに表示されます。

注:

 またはその他のシステム短縮ダイヤルボタンを使用して発信した呼は、ログに記録できません。

コールログサマリ画面の各ページには、エントリを 4 件まで表示できます。ログに記録されたすべてのタイプのコールログのページを表示するには、◀ と ▶ を使用します。[図 4](#) を参照してください。

図 4: コールログサマリ画面の例



コールログサマリ画面には、2 つのソフトキーセットがあります。最初のソフトキーセットでは、未応答呼、応答呼、または発信呼を表示できます。[図 4](#) を参照してください。2 つ目のソフトキーセットではすべてのタイプのコールログを表示したり、表示されたコールログエンtry（たとえば、発信呼のログエンtry）を削除することができます。[図 5](#) を参照してください。ソフトキーの最初のセットと 2 つ目のセットを切り替えるには、[More (ショウサイ)] ソフトキーと [Back (モドル)] ソフトキーを押します。

図 5: 2つ目のソフトキーセットが表示されたコールログサマリ画面の例



コールタイプを選択すると、選択したコールタイプのソフトキーの横に矢印（▶）が表示されます。別のコールタイプのソフトキーを押すまで、選択したコールタイプのエントリが表示されます。デフォルトでは、未応答呼が表示されます。

最新の呼は、最初のページの先頭に表示されます。ログの件数が最大数（100 件の呼）に達すると、もっとも古い通話情報が自動的に削除されるため、ログへの記録が中断されることなく続けます。さらに、特定のエントリをコールログ詳細画面で削除することができます。

注:

コールログサマリ画面にアクセスし、コールログの未応答呼の情報を表示すると、未応答呼カウントは 0 にリセットされます。

ログサマリ内の特定エントリの詳細を表示するには、そのエントリに対応するボタンを押して、コールログ詳細画面にアクセスします。

コールログサマリ画面での操作

| コールログサマリ画面での操作 | |
|---|--|
| 目的 | 押下するボタン |
| 特定ログエントリの情報を表示する | エントリに対応するボタン |
| コールログエントリの次のページを表示する | ▶ |
| コールログエントリの前のページを表示する | ◀ |
| 応答していない呼（未応答呼）を表示する | [Missed (ミオウトウ)] ソフトキー |
| 応答した着信呼を表示する | [InAns (オウトウ)] ソフトキー |
| 発信呼を表示する | [Outgo (ハッシン)] ソフトキー |
| コールログのすべてのエントリを表示する。2420 Telephone に、応答エントリ、未応答エントリ、および発信エントリを表示します。 | [All (スベテ)] ソフトキー |
| 表示されたコールログのすべてのエントリを削除する | [Delete (サケジョ)] ソフトキー |
| インデックス機能を使用して特定のエントリを素早く見つける 注: インデックス機能の使用時は、電話機がオンフックになっている必要があります。 | ダイヤルパッドで 0 を押すと、最初のコールログエントリに移動します。 1 を押すと、10 番目のコールログエントリが含まれるページが表示されます。 2 を押すと、20 番目のコールログエントリが含まれるページが表示されます。 3 を押すと、30 番目のコールログエントリが含まれるページが表示されます。 4 ~ 9 のキーを押すと、40 番目から 50 番目のコールログエントリが含まれるページが表示されます。 |
| 前に作業していたホーム画面に戻る | [Done (シュウリョウ)] ソフトキー |
| ホーム画面のページ 1 に戻る | ➡ (随時) |

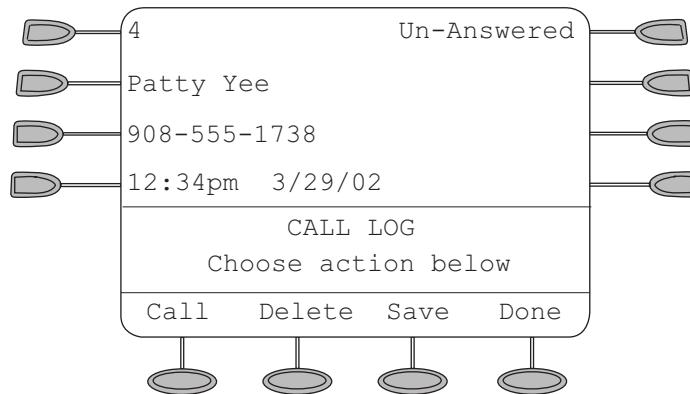
コールログ詳細画面

コールログサマリ画面からアクセスするコールログ詳細画面では、次のことができます。

- コールタイプや呼の発着信の日付と時間などの追加情報を表示
- この画面から直接、表示されたエントリに電話をかける。詳細については、[35 ページの「コールログの使用」](#)を参照してください。

[図 6](#) に、コールログ詳細画面の例を示します。

図 6: コールログ詳細画面の例



画面の左上隅に表示される数値は、この呼のログサマリ内での順番を示します。右上隅にはコールタイプが表示されます。表示されるコールタイプは、「Answered (オウトウ)」、「Un-answered (ミオウトウ)」、または「Outgoing (ハウツシング)」です。応答呼と発信呼の場合、画面の右下隅に通話時間が表示されます。

コールログ詳細画面での操作

| コールログ詳細画面での操作 | |
|--|--|
| 目的 | 押下するボタン |
| 表示されたエントリに電話をかける | [Call (コール)] ソフトキー |
| 次のコールログエントリを表示する | ▶ |
| 前のコールログエントリを表示する | ◀ |
| インデックス機能を使用して特定のエントリを素早く見つける 注: インデックス機能の使用時は、電話機がオングループになっている必要があります。 | ダイヤルパッドで 0 を押すと、最初のコールログエントリに移動します。 1 を押すと、10 番目のコールログエントリが表示されます。 2 を押すと、20 番目のコールログエントリが表示されます。 3 を押すと、30 番目のコールログエントリが表示されます。 4 ~ 9 のキーを押すと、40 番目から 50 番目のコールログエントリが表示されます。 |
| 選択したエントリを削除する | [Delete (サクショ)] ソフトキー |
| 選択したエントリを短縮ダイヤルエントリとして保存する | [Save (ホゾン)] ソフトキー |
| 前に作業していたコールログサマリ画面に戻る | [Done (シュウリョウ)] ソフトキー |
| ホーム画面のページ 1 に戻る | （随時） |

コールログの使用

電話機の工場出荷時のコールログ機能は、応答呼、未応答呼、および発信呼を記録するように設定されています。コールログを無効にしたり、あるいはログに記録するコールタイプを変更する手順については、[46 ページの「コールログセットアップ（コールログ設定）」](#)を参照してください。

コールログの表示

コールログに記録されたすべての呼のリストを表示するには

1. ホーム画面で、[Log (ログ)] ソフトキーを押します。
コールログサマリ画面が表示されます。
2. 表示対象のコールタイプのエントリに対応するソフトキーを押します。未応答呼、応答呼、発信呼から選択できます。デフォルトでは、未応答呼が表示されます。すべてのエントリを表示する場合は、[More (ショウサイ)] ソフトキーを押し、次に [All (スペ・テ)] ソフトキーを押します。
3.  と  を使用して、コールログサマリページをスクロールします。
4. 特定のエントリの情報を表示するには、そのエントリに対応するボタンを押します。
該当エントリのコールログ詳細画面が表示されます。
5.  を押して、ホーム画面に戻ります。

コールログを使用した呼の発信

コールログのエントリに電話をかけるには

1. ホーム画面で、[Log (ログ)] ソフトキーを押します。
コールログサマリ画面が表示されます。
2.  と  を使用して、コールログサマリページをスクロールします。
3. 発信先のエントリが見つかったら、そのエントリに対応するボタンを押します。
該当エントリのコールログ詳細画面が表示されます。
4. [Call (コール)] ソフトキーを押して、電話をかけます。

注:

この方法は、内線に直接電話をかける場合に使用できます。外線番号に電話をかけるには、オフフックにしてから、外線にアクセスするために必要な番号（「9」など）をダイヤルします。次に、[Call (コール)] ソフトキーを押して、電話をかけます。

短縮ダイヤルリストへのコールログエントリの保存

コールログのエントリを短縮ダイヤルリストに保存するには

1. ホーム画面で、[Log (ログ)] ソフトキーを押します。
コールログサマリ画面が表示されます。
 2.  と  を使用して、コールログサマリページをスクロールします。
 3. 保存するエントリが見つかったら、そのエントリに対応するボタンを押します。
該当エントリのコールログ詳細画面が表示されます。
 4. [Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。
名前編集画面に、コールログからの名前および番号情報が表示されます。
 5. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 現在の画面に表示されたエントリをそのまま短縮ダイヤルリストに保存するには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。
 - 名前を編集するには、「Name (ナマエ)」フィールドの左にある機能ボタンを2回押します。名前の先頭にカーソルが表示されます。変更します。カーソルの左側にある文字を削除するには、[Backspace (バックスペース)] 機能ボタンを使用します。フィールド内のすべての文字を削除するには、[Clear (クリア)] 機能ボタンを使用します。電話番号を編集する場合は、次の箇条書き項目を参照してください。変更を入力し終えたら、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。
 - 電話番号を編集して、外線にアクセスするために必要な番号（「9」など）を含めるには、「Number (バンゴウ)」フィールドの左にある機能ボタンを2回押します。電話番号の先頭にカーソルが表示されます。変更します。カーソルの左側にある文字を削除するには、[Backspace (バックスペース)] 機能ボタンを使用します。フィールド内のすべての文字を削除するには、[Clear (クリア)] 機能ボタンを使用します。変更を入力し終えたら、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。
- エントリが、短縮ダイヤルリストに保存されます。

注:

「Speed Dial List Full (タンショクダイヤルリストフル)」というメッセージが表示されたら、新しいエントリを追加する前に、短縮ダイヤルリストのいくつかのエントリを削除する必要があります。

コールログエントリの削除

コールログの任意のエントリを削除するには

1. ホーム画面で、[Log (ログ)] ソフトキーを押します。
コールログサマリ画面が表示されます。
2.  と  を使用して、コールログサマリページをスクロールします。
3. 削除するエントリが見つかったら、そのエントリに対応するボタンを押します。
該当エントリのコールログ詳細画面が表示されます。
4. [Delete (サケジョ)] ソフトキーを押します。
コールログからエントリが削除されます。

コールログのすべてのエントリを削除するには

1. ホーム画面で、[Log (ログ)] ソフトキーを押します。
コールログサマリ画面が表示されます。
2. 特定のコールタイプのエントリを削除するには、該当するソフトキーを押します。すべてのエントリを削除する場合は、[More (ショウサイ)] ソフトキーを押し、次に [All (スペチ)] ソフトキーを押します。
選択したコールタイプのエントリが表示されます。
3. [Delete (サクジョ)] ソフトキーを押します。
全削除確認画面が表示されます。
4. [Erase (ショウキョ)] ソフトキーを押します。
コールログからエントリが削除されます。

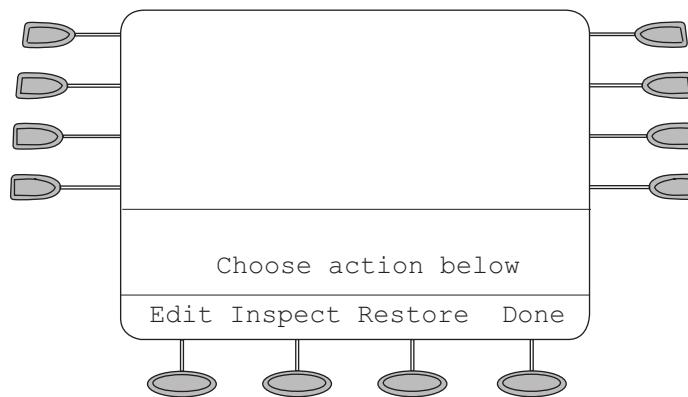
ラベル操作画面

ホーム画面の [Label (ラベル)] ソフトキーを押してアクセスするラベル操作画面では、次のことを行えます。

- 呼処理システムでプログラムされた回線 / 機能ボタンラベルのカスタマイズ
- 呼処理システムでプログラムされたデフォルトの回線 / 機能ボタンラベルの表示
- 変更した回線 / 機能ボタンラベルの消去、および呼処理システムのデフォルトラベルのリストア

[図 7](#) に、ラベル操作画面を示します。

図 7: ラベル操作画面



ラベル操作画面での操作

| ラベル操作画面での操作 | |
|---|---|
| 目的 | 押下するボタン |
| 回線 / 機能ボタンのラベルを変更する | [Edit (ヘンショウ)] ソフトキー |
| 回線 / 機能ボタンのシステムデフォルトラベルを表示する | [Inspect (カクニン)] ソフトキー |
| すべての回線 / 機能ボタンのカスタマイズしたラベルを削除し、すべてのシステムラベルをリストアする | [Restore (リセット)] ソフトキー |
| 前に作業していたホーム画面に戻る | [Done (シュウリョウ)] ソフトキー。下記の注を参照。 |
| ホーム画面のページ 1 に戻る |  (随时) |

注:

回線 / 機能ボタンラベルの管理操作中は、実行可能な操作に応じて、画面の下部に表示されるソフトキーが変わります。

注:

ラベル選択画面で回線 / 機能ボタンのラベルを変更している間は、電話機のダイヤルパッドを使用してダイヤルすることはできません。

回線 / 機能ボタンのラベルの管理

ラベル操作画面では、次のことができます。

- 2420 Telephone および EU24 拡張モジュール(接続されている場合)の回線 / 機能ボタンラベルのカスタマイズ
- 呼処理システムの回線 / 機能ボタンラベルの表示
- すべての回線 / 機能ボタンのデフォルトラベルのリストア

この画面にアクセスするには、ホーム画面で **[Label (ラベル)]** ソフトキーを押します。

ラベルの編集

電話機および EU24 拡張モジュール (接続されている場合) の回線 / 機能ボタンのラベルを変更できます。これらの新しいラベルは、2420 Telephone に保存されます。

回線 / 機能ボタンのラベルを編集するには

1. ホーム画面で、**[Label (ラベル)]** ソフトキーを押します。

ラベル操作画面が表示されます。

2. **[Edit (ヘンシュウ)]** ソフトキーを押します。

ラベル選択画面が表示されます。

注:

 と  を使用して、編集対象のラベルを見つけることができます。

3. 2420 Telephone または EU24 拡張モジュール (接続されている場合) で、編集するラベルに対応する機能ボタンを押します。

ラベル編集画面が表示されます。「New Label (シンキラベル)」フィールドに、カスタマイズされた現在のラベル(カスタマイズされている場合)が表示され、「System Label (システムラベル)」フィールドにシステムデフォルトラベルが表示されます。

システムラベルを変更していない場合は、「New Label (シンキラベル)」フィールドの横に下線が表示されます。コールアピアランス回線を選択している場合、「New Label (シンキラベル)」フィールドの横に文字(「a」など)とスペースが表示されます。この文字とスペースを削除するには、**[Backspace (バックスペース)]** 機能ボタンを 2 回押します。

システムラベルを変更している場合は、「New Label (シンキラベル)」フィールドに表示された情報の最終文字の後に下線が表示されます。

4. ダイヤルパッドを使用してラベルを編集します。最大 13 文字を入力できます。デフォルトでは、最初に入力した文字は大文字で表示され、それ以降の文字は小文字で表示されます。

注:

大文字と小文字を切り替えるには、[Case (シフト)] ソフトキーを使用します。名前と名字の間にスペースを挿入するには、[Space (スペース)] ソフトキーを使用します。特殊文字を入力する場合、* (アスタリスク) キーを使用すると、ピリオドとアスタリスクを切り替えることができます。# (シャープ) キーを使用すると、ハイフンとシャープを切り替えることができます。カーソルの左側にある文字を削除するには、[Backspace (バックスペース)] 機能ボタンを使用します。フィールド内のすべての文字を削除するには、[Clear (クリア)] 機能ボタンを使用します。文字を消去せずにカーソルを左へ移動するには、◀ を使用します。文字を消去せずにカーソルを右へ移動するには、▶ を使用します。

注:

システムラベルをリストアする場合は、[Clear (クリア)] 機能ボタンを押して、フィールド内のすべての文字を削除します。このフィールドを空白のままにして、手順 5 を参照してください。

5. 変更し終わったら、次の手順のいずれかを行います。

- エントリを保存してラベル選択画面に戻るには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。
- エントリを保存せずにラベル選択画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
- エントリを保存せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、◀ を押します。

6. 他のエントリを編集するには、手順 3 ~ 5 を繰り返します。

システムラベルの表示

呼処理システムの回線 / 機能ボタンのシステムラベルを表示できます。

システムラベルを表示するには

1. ホーム画面で、[Label (ラベル)] ソフトキーを押します。
ラベル操作画面が表示されます。
2. [Inspect (カニン)] ソフトキーを押します。
ラベル参照画面が表示されます。この画面には、2420 Telephone のシステムラベルが表示されます。EU24 拡張モジュールが接続されている場合、これらのシステムラベルは EU24 拡張モジュールにも表示されます。
3. ◀ と ▶ を使用して、2420 Telephone のラベル参照画面のページをスクロールします。EU24 拡張モジュールが接続されている場合は、EU24 拡張モジュールの [Alternate Display] ボタンを使用してシステムラベルを表示します。

4. 次の手順のいずれかを実行します。

- ラベル操作画面に戻るには、[Done (ショウリョウ)] ソフトキーを押します。
- ホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

システムラベルのリストア

回線/機能ボタンに対して作成したカスタムラベルを削除し、呼処理システムのシステムラベルをリストアできます。

注:

この手順では、すべての回線 / 機能ボタンのシステムラベルをリストアします。特定の回線 / 機能ボタンのシステムラベルをリストアする場合は、そのボタンのラベルを削除します。[39 ページの「ラベルの編集」](#) を参照してください。

システムラベルをリストアするには

1. ホーム画面で、[Label (ラベル)] ソフトキーを押します。

ラベル操作画面が表示されます。

2. [Restore (リセット)] ソフトキーを押します。

ラベルリストア画面が表示されます。

3. [Erase (ショウキョウ)] ソフトキーを押します。

消去確認プロンプトが表示されます。

4. 次の手順のいずれかを実行します。

- カスタムラベルを消去してシステムラベルをリストアするには、[Erase (ショウキョウ)] ソフトキーを押します。
- カスタムラベルの消去とシステムラベルのリストアを行わずに ラベル操作画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
- カスタムラベルの消去とシステムラベルのリストアを行わずにホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

オプション画面

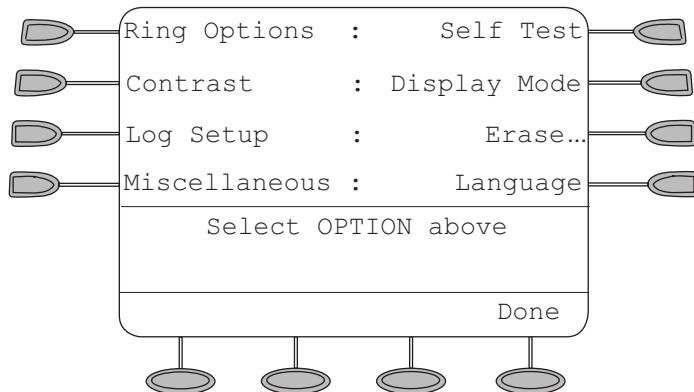
ホーム画面で [Option (オプション)] ソフトキーを押してアクセスするオプション画面では、次のオプションを設定できます。

- 着信音パターン
- 画面コントラスト
- ログセットアップ
- 着信表示 (着信時ランプ点滅)
- 呼の着信時に、ホーム画面の代わりに現在の画面を表示し続けるかどうか (電話画面表示オプション)
- 短縮ダイヤルを使用して電話をかけるときに、2420 Telephone に短縮ダイヤル画面を表示し続けるかどうか (短縮ダイヤル表示維持オプション)
- 自己診断 (テスト)
- 表示モード — 標準表示モード (8つの回線/機能ボタン) またはコールセンターモード (12の回線/機能ボタン)
- 言語 — 英語、ドイツ語 (Deutsch)、フランス語 (Français)、スペイン語 (Español)、イタリア語 (Italiano)、オランダ語 (Nederlands)、ポルトガル語 (Português)、または日本語 (カタカナ)

オプション画面では、ユーザー設定の一部またはすべてを消去して、2420 Telephone をデフォルト設定に戻すこともできます。

[図 8](#) に、オプション画面の例を示します。

図 8: オプション画面の例



オプション画面での操作

| オプション画面での操作 | |
|------------------|-----------------------|
| 目的 | 押下するボタン |
| オプションを選択する | 対応するボタン |
| 前に作業していたホーム画面に戻る | [Done (シュウリョウ)] ソフトキー |
| ホーム画面のページ 1 に戻る | ◀ (随時) |

注:

▶ を押すと、2 番目の画面が表示されます。この画面では、ハンドセット、ヘッドセットまたはスピーカホンの自動ゲインコントロール (Automatic Gain Control、AGC) 機能を有効または無効にできます。このデフォルト設定は、変更しないことを強くお勧めします。ただし、補聴器を使用している方の場合は、ハンドセットの AGC 機能を無効にしたほうが良い場合があります。デフォルト設定を変更すると、音質に悪影響を及ぼす可能性があります。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。

ユーザー設定オプションの選択

着信音パターン

着信オプション画面の着信音パターンオプションでは、着信音パターンから好みの電話機の着信音を選択できます。8 つのパターンから選択可能です。

注:

着信音パターンオプション画面での操作中に着信呼を受信すると、呼処理を行いやすいうように自動的にホーム画面が表示されます。

ユーザー設定着信音パターンを選択するには

- ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
- [Ring Options (ヨビダシオプション)] 機能ボタンを押します。
着信オプション画面が表示されます。
- [Ring Pattern (ヨビダシオンパターン)] 機能ボタンを押します。
着信音パターン選択画面に現在の着信音パターンが表示されます。
- ◀ と ▶、またはダイヤルパッドを使用して、8 つの着信音パターンを切り替えます。

注:

特定の着信音パターンを聞くには、着信音パターン番号が選択された状態で [Play (サイセイ)] ソフトキーを押します。

5. 次の手順のいずれかを実行します。

- 選択した着信音パターンを保存するには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。確認トーンが鳴り、着信オプション画面に戻ります。
- 着信音パターンを変更せずに着信オプション画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
- 着信音パターンを変更せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

注:

選択操作中にオフフックにしたり、あるいは着信や停電が発生した場合は、操作プロセスがキャンセルされるため、手順を始めからやり直さなければなりません。

着信表示（着信時ランプ点滅）

着信オプション画面の着信時ランプ点滅オプションでは、着信呼のビジュアルアラートを選択できます。着信時ランプ点滅オプションを有効にすると、呼の着信時に着信音が鳴るとともに、2420 Telephone の表示画面の上にあるランプが点滅します。デフォルトでは、着信時ランプ点滅オプションは無効にされています。

着信時ランプ点滅オプションを設定するには

- ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
- [Ring Options (ヨビダシオプション)] 機能ボタンを押します。
着信オプション画面が表示されます。
- [Flash Message Lamp (メッセージランプヲテンメツ)] 機能ボタンを押します。
オプション設定が下線付きで表示されます。
- [Yes/No (ハイ・イエ)] ソフトキーまたはボタン 6 を押して、着信時ランプ点滅を有効にするかどうかを指定します。

5. 次の手順のいずれかを実行します。

- 選択した設定を保存するには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。確認トーンが鳴り、オプション画面に戻ります。
- 設定を保存せずにオプション画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
- 設定を変更せずにホーム画面のページ 1に戻るには、 を押します。

電話画面表示

着信オプション画面の電話画面表示オプションでは、呼の着信時に、2420 Telephone にホーム画面と着信音が鳴っているコールアピアランス回線が表示されるように設定できます。ただし、呼の着信時にホーム画面ではなく現在の画面を表示し続ける場合は、この機能を無効にする必要があります。デフォルトでは、電話画面表示オプションは無効にされています。

電話画面表示オプションを設定するには

- ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
- [Ring Options (ヨビダシオプション)] 機能ボタンを押します。
着信オプション画面が表示されます。
- [Show Phone Screen (テレホンスクリーン)] 機能ボタンを押します。
この行に下線が表示されます。
- [Yes/No (ハイ・イエ)] ソフトキーまたは機能ボタン 7 を押して、電話画面表示オプションを有効にするかどうかを指定します。
- 次の手順のいずれかを実行します。
 - 選択した設定を保存するには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。確認トーンが鳴り、オプション画面に戻ります。
 - 設定を保存せずにオプション画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
 - 設定を変更せずにホーム画面のページ 1に戻るには、 を押します。

画面コントラスト

オプション画面のコントラストオプションでは、電話機の表示画面のコントラストレベルを選択できます。15 のコントラストレベルから選択できます。

コントラストレベルを選択するには

1. ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。

オプション画面が表示されます。

2. [Contrast (コントラスト)] 機能ボタンを押します。

画面コントラスト画面が表示されます。

3.  と  を使用して、コントラストのレベルを調整します。

注:

EU24 がご使用の 2420 Telephone に接続されている場合、表示画面には EU24 のコントラストレベルも表示されます。該当するボタンを押して、電話機または EU24 のコントラストを調整するかどうかを指定します。

4. 次の手順のいずれかを実行します。

- オプション画面に戻るには、[Done (ショウリョウ)] ソフトキーを押します。

- ホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

新しいコントラストレベルが設定されます。

コールログセットアップ (コールログ設定)

オプション画面のログ設定オプションでは、2420 Telephone でログに記録するコールタイプを指定できます。次のコールタイプがあります。

- 着信応答 (オウトウ)
- 着信未応答 (ミオウトウ)
- 発信 (ハッシン)

複数またはすべてのコールタイプをログに記録することも、あるいはどのコールタイプも記録しないことも選択できます。

注:

コールログサマリを表示する手順については、[29 ページの「コールログ画面」](#)を参照してください。

コールログに表示するコールタイプを指定するには

1. ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
2. [Log Setup (ログセッティ)] 機能ボタンを押します。
コールログ設定画面が表示されます。現在の [Yes/No (ハイ・イイ)] 設定が、選択されている項目として下線付きで表示されます。
3. 表示画面の右側の該当するボタンを押します。例えば、コールタイプに応答呼を選択するには機能ボタン 6 を押し、ボタンを 1 回押して [Yes/No (ハイ・イイ)] 設定を変更します。
4. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 選択した設定を保存するには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。確認トーンが鳴り、オプション画面に戻ります。
 - エントリを保存せずにオプション画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
 - エントリを保存せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

注:

[Save (ホゾン)] ソフトキーを押すと、指定したコールタイプと一致しないすべてのエントリが、コールログから削除されます。

表示モード（コールセンターモード）

デフォルトでは、2420 Telephone の各画面ページには、8 つの回線 / 機能ボタンが表示されます。オプション画面の表示モードオプションでは、最初の 2 つの画面ページそれぞれに、12 の回線 / 機能ボタンが表示されるように選択できます。この表示画面は、コールセンターに最適です。

表示モードオプションを設定するには

1. ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
2. [Display Mode (ヒヨウジモード)] 機能ボタンを押します。
表示モード画面が表示されます。
3. [Yes/No (ハイ・イイ)] ソフトキーを押すか、あるいは設定の右にあるボタンを押して、コールセンターモードを有効にするかどうかを指定します。

4. 次の手順のいずれかを実行します。

- 選択した設定を保存するには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。確認トーンが鳴り、オプション画面に戻ります。
- 設定を保存せずにオプション画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
- 設定を変更せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

注:

コールセンターモードを有効にすると、表示画面の左側に回線 / 機能ボタン 1 ~ 4 が表示されます。右側には回線 / 機能ボタン 5 ~ 8 が表示されます。最初の画面ページでは、短縮されたラベル付きの回線 / 機能ボタン 17 ~ 20 が、画面下部に並んで表示されます。

コールセンターモードでは、回線 / 機能ボタン 21 ~ 24 のラベルは、2 番目の画面ページの下部に並んで表示されます。これらのボタンラベルは、3 番目の画面ページに同じ順序で繰り返されます。ソフトキーのラベルは、画面下部に表示されます。

消去

オプション画面の消去オプションでは、一部またはすべてのユーザー設定を消去できます。この画面からは、次の設定を消去できます。

- 短縮ダイヤルリストに保存されたすべてのエントリ
- コールログに保存されたすべてのエントリ
- カスタマイズされたすべての回線 / 機能ボタンラベル
- 着信音パターン、着信時ランプ点滅、電話画面表示、短縮ダイヤル表示維持などのオプション

注:

コントラストレベルの設定は変更されません。

- 言語

[All (すべて)] 機能ボタンを押すと、5 つの項目すべてが消去対象として選択されます。

注:

コントラストレベルの設定は、全消去オプションでは変更されません。

ユーザー設定を消去するには

1. ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
2. [Erase... (ショウキョ...)] 機能ボタンを押します。
消去画面が表示されます。
3. 各項目の横にある機能ボタンを押して、消去対象として選択します。すべての項目を消去する場合は、[All (スペ・テ)] 機能ボタンを押します。
選択した各設定の横にアイコン (▶) が表示されます。

注:

項目を選択解除するには、もう一度機能ボタンを押します。

4. [Erase (ショウキョ)] ソフトキーを押します。
消去確認画面に、この操作はやり直すことができないことを通知するメッセージが表示されます。
5. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 選択した設定を消去するには、[Erase (ショウキョ)] ソフトキーを押します。選択した設定が消去され、オプション画面に戻ります。
 - 設定を消去せずにオプション画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
 - 設定を消去せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

短縮ダイヤル表示維持画面

オプション画面の短縮ダイヤル表示維持オプションでは、短縮ダイヤルを使用して電話をかけるときに、2420 Telephone に短縮ダイヤル画面を表示し続けるように設定できます。このオプションを有効にすると、短縮ダイヤルを使用して電話をかけるときに、2420 Telephone のホーム画面が自動的に表示されず、短縮ダイヤル画面が表示されたままになります。短縮ダイヤル表示維持オプションは、1 回の呼で複数の短縮ダイヤルをダイヤリングする場合に便利です。一例として、銀行の電話番号をダイヤリングするスピードダイヤルとは別に、口座番号をダイヤリングする短縮ダイヤルがある場合が挙げられます。デフォルトでは、短縮ダイヤル表示維持オプションは無効になっています。

短縮ダイヤル表示維持オプションを設定するには

1. ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
2. [Miscellaneous (ソリタ)] 機能ボタンを押します。
短縮ダイヤル表示維持画面で、(タンシユクダイヤルノママ:) の選択肢が表示されます。

3. [Yes/No (ハイ・イイ)] ソフトキーまたは機能ボタン 6 を押して、短縮ダイヤル表示維持を有効にするかどうかを指定します。
4. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 選択した設定を保存するには、[Save (ホゾン)] ソフトキーを押します。確認トーンが鳴り、オプション画面に戻ります。
 - 設定を保存せずにオプション画面に戻るには、[Cancel (キャンセル)] ソフトキーを押します。
 - 設定を変更せずにホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

自己診断（テスト）

オプション画面に表示される自己診断（テスト）オプションは、2420 Telephone のランプと表示画面コンポーネントの動作を検証します。この画面は、2420 Telephone のファームウェアバージョン、リンクステータス、およびモジュールステータスに関する情報も提供します。

注:

[Test (テスト)] ソフトキーを押し下げている間は、電話をかけたり、ダイヤルパッドと呼処理ボタンを使用することはできません。呼への応答は、ハンドセットを使用して行うことができます。

2420 Telephone に自己診断を実行させるには

1. ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
2. [Self Test (テスト)] 機能ボタンを押します。
自己診断（テスト）画面が表示されます。
3. [Test (テスト)] ソフトキーを押したままにして、診断プロセスを開始します。
4. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 診断モードを終了してオプション画面に戻るには、[Done (ショウリョウ)] ソフトキーを押します。
 - 診断モードを終了してホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。

言語

2420 Telephone 設置時の画面表示テキストは、英語に設定されています。オプション画面の言語オプションでは、次の言語を選択できます。

- ドイツ語 (Deutsch)
- フランス語 (Français)
- スペイン語 (Español)
- イタリア語 (Italiano)
- オランダ語 (Nederlands)
- ポルトガル語 (Português)
- 日本語 (カタカナ)

画面の表示言語を選択するには

1. ホーム画面で、[Option (オプション)] ソフトキーを押します。
オプション画面が表示されます。
2. [Language (ケンゴ)] 機能ボタンを押します。
言語選択画面が表示されます。
3. テキストの表示に使用する言語の横にあるボタンを押します。
画面テキストが、選択した言語で再表示されます。
4. 次の手順のいずれかを実行します。
 - オプション画面に戻るには、[Done (ショウリョウ)] ソフトキーを押します。
 - ホーム画面のページ 1 に戻るには、 を押します。選択した言語が保存されます。

交換機で設定される特定機能の使用

下記の機能は、システム管理者によって 2420 Telephone の機能ボタンとして設定されている場合、あるいは必要な機能特番 (FAC) が提供されている場合にのみ使用できます。

システム短縮ダイヤル / 自動ダイヤリング (AD)

システム短縮ダイヤル (AD) 機能は、選択した電話番号を保存して、素早く簡単にダイヤルできるようにします。それぞれの番号は、完全または部分的な電話番号、内線番号、あるいはトランクや機能特番にすることが可能で、最大 24 枠にできます。システム短縮ダイヤルには 4 つのリストタイプ (個人用、グループ、システムおよび拡張リスト) があり、合計 3 つのリストを使用できます。3 つの使用リストのうち、システムリストと拡張リストはそれぞれ 1 つしか使用できません。個人用リストでは、ユーザーが番号を登録できます。グループリストでは、グループリストの管理者が番号を登録します。システムリストと拡張リストは、システム管理者が登録します。

注:

システム短縮ダイヤル / 自動ダイヤリング機能を使用してかけた電話は、発信呼がログに記録されるように 2420 Telephone をプログラムしている場合でも、コールログに保存されません。

システム短縮ダイヤルリストボタンまたは機能特番 (FAC) を使用して電話をかけるには

1. システム短縮ダイヤルリストボタン (設定されている場合) を押すか、あるいはリスト 1、リスト 2 またはリスト 3 に対応するシステム短縮ダイヤルリスト番号をダイヤルします。
2. 発信音が聞こえたら、対象のリスト項目 (1, 2, 3...) をダイヤルします。

注:

拡張リストも使用できる場合があるので、システム管理者に問い合わせてください。

システム短縮ダイヤルリストに保存されていないシステム短縮ダイヤルボタンに番号を登録することもできます。この自動ダイヤリング番号は最大 16 枠にことができ、5 文字のラベルを付けられます。

システム短縮ダイヤルボタンに番号を登録するには

注:

システム短縮ダイヤルボタンだけでなく、[Abr Program (タシュクトウロク)] ボタンも設定されている必要があります。この機能を使用すると、スピーカがアクティブになります。 を押しても登録モードは終了しません。表示画面を更新して登録モードを終了するには、電話を切る必要があります。

1. [Abr Program (タシュクトウロク)] ボタンを押します。
2. 表示画面のプロンプトに従い、番号とラベルを登録します。
3. # キーを押して、エントリを保存します。
4. 登録する別のシステム短縮ダイヤルボタンを押します。

注:

登録中に間違えて入力した場合は、# キーを押してエントリを保存し、手順を始めからやり直します。

システム短縮ダイヤルボタンを使用して電話をかけるには
システム短縮ダイヤルボタンを押して、登録済みの番号の自動ダイヤリングを行います。

不在転送

可変不在転送機能は、かかってきたすべての電話を、指定の内線または外線番号に一時的に転送します。ただしシステムの設定によっては、外線への自動転送は制約される場合もあります。

すべての着信呼を選択した内線番号または外線番号に一時的に転送するには

1. **Call Fwd** (ファイテンソウ) ボタン (設定されている場合) を押すか (オンフックまたはオフフック時)、あるいは不在転送機能特番 (FAC) をダイヤルします (オフフック時)。

注:

コンソールパミッショナを持っている内線の場合は、次に、転送元の内線番号をダイヤルし、発信音を待ちます。

2. 発信音が聞こえたら、転送先の内線番号または電話番号をダイヤルします。
3. 確認トーンが聞こえたら、電話を切ります。

不在転送をキャンセルするには

もう一度 **Call Fwd** ボタンを押すか (オンフック時)、あるいは不在転送キャンセル番号をダイヤルします (オフフック時)。

コールパーク

コールパーク機能では、自分の電話機で呼を保留にし、別の内線でその呼に応答できます。

コールパークボタンが設定されている場合に自分の内線の通話を（別の内線で応答できるよう）保留にするには

1. **Call Park** (コールパーク) を押します。
2. 電話を切ります。

コールパークボタンが設定されていない場合に自分の内線の通話を（別の内線で応答できるよう）保留にするには

1.  を押します。
2. コールパーク機能特番 (FAC) を入力します。
3. 確認トーンが聞こえたら、電話を切ります。

別の内線で保留にされた呼に応答するには

1. ハンドセットを持ち上げるか、または  を押します。
2. AnswerBack 機能特番 (FAC) をダイヤルします。
3. 発信音が聞こえたら、呼を保留にした内線番号をダイヤルします。

自分の電話機で保留にした通話に戻るには、ユーザー自身の内線番号をダイヤルします。

コールピックアップおよび内線指定コールピックアップ

コールピックアップ機能では、ピックアップグループ内の別の内線にかかってきた電話に応答できます。内線指定コールピックアップ機能が使用可能な場合は、ピックアップグループのメンバの内線でなくても、特定の内線にかかってきた電話に応答することができます。

電話機がアイドル状態のとき、ピックアップグループのメンバにかかってきた電話に応答するには

CallPickup (コールピックアップ) ボタン (設定されている場合) を押すか、あるいはコールピックアップ機能特番 (FAC) をダイヤルします。

着信先の電話機の着信音が止まり、呼び出し中の呼に接続されます。

オフィス内の別の人のかかってきた電話に直接応答するには

注:

内線指定コールピックアップ機能は、同僚が席を離れている間、代わって電話に応答するために設計されています。この場合、同じピックアップグループのメンバである必要はありません。

1. **DirCall PkUp** (シテイピックアップ) ボタンを押すか、あるいは内線指定コールピックアップ機能特番 (FAC) をダイヤルします。
2. 着信音が鳴っている電話機の内線番号をダイヤルします。

着信先の電話機の着信音が止まり、呼び出し中の呼に接続されます。

Leave Word Calling (LWC)

Leave Word Calling (LWC) 伝言機能は、別の内線にいる相手に、電話をかけ直してくれるようメッセージを残します。被呼者がオペレータ、ボイスメールシステム、またはカバレッジユーザーなどのメッセージサービスをダイヤルすると、以下の情報を提供する短い標準メッセージが電話機の LCD に表示されます。

- 発呼者の名前と内線番号
- 電話をかけた日付と時刻
- 電話をかけた回数

電話に応答がない場合、カバートーンやビジートーンが聞こえた場合、または保留にされた場合、内線番号をダイヤルした後にメッセージを残すには

LWC ボタン（設定されている場合）を押し、確認トーンが聞こえてから電話を切ります。

着信先の電話機のメッセージランプが点灯します（設定されている場合）。

注:

リオーダートーンが聞こえた場合、メッセージは保存されていません。手順をやり直します。

内線を呼び出さずにメッセージを残すには

1. **LWC** ボタンを押すか、あるいは LWC 機能特番 (FAC) をダイヤルします（オフフック時）。
2. 発信音が聞こえたら、内線番号をダイヤルして確認トーンが聞こえるのを待ちます。
着信先の電話機のメッセージランプが点灯します（設定されている場合）。
3. 電話を切ります。

LWC のメッセージをキャンセルするには

注:

ボイスメールユーザーに対して残したメッセージはキャンセルできません。

1. **Cancel LWC** (LWC キャンセル) ボタン（設定されている場合）を押すか（オンフックまたはオフフック時）、あるいは LWC キャンセル番号をダイヤルします（オフフック時）。
2. 発信音が聞こえたら、内線番号をダイヤルして確認トーンが聞こえるのを待ちます。

注:

リオーダートーンが聞こえた場合、メッセージはキャンセルされていません。手順をやり直します。

離席機能 (SAC)

離席機能 (SAC) は、すべての着信呼をボイスメールシステム、または同じシステム内の別の内線に送信します。優先コールと自動コールバックは、離席機能では転送されません。

注:

この機能を使用するには、システム管理者が内線のカバレッジパスを設定する必要があります。

優先コールと自動コールバックを除いたすべての呼をカバレッジパスに即時転送するには

1. **Send Calls** (リセキ) ボタンを押すか (オンフック時)、あるいはSAC 機能特番 (FAC) をダイヤルします (オフフック時)。
2. 確認トーンが聞こえるのを待ちます。

注:

機能特番 (FAC) 特番を使用した場合にのみ、確認トーンが聞こえます。

離席機能をキャンセルするには

1. もう一度**Send Calls** ボタンを押すか (オンフック時)、あるいはSAC キャンセル番号をダイヤルします (オフフック時)。
2. 確認トーンが聞こえるのを待ちます。

ウィスパーページ

ウィスパーページ機能では、適切な許可を持っている場合、別の内線で通話中の相手にアナウンスすることができます。ウィスパーページ機能は、着信先への片方向通話パスを提供します。着信先の内線にいる相手は、こちら側の声を聞くことはできますが、話すことはできません。他の回線で通話している両者には、着信ウィスパーページを通知するビープ音が聞こえます。ただし、アナウンスは、対象の内線にいる相手にしか聞こえません。もう一方の相手は、アナウンスを聞くことができません。ウィスパーページを行ったときに、対象の内線にいる相手が通話を求める場合、その相手は **WhisperAnbk** (ウィスパー・オウト) ボタンを押すことができます。

注:

ウィスパーページをアクティブにした時点で、着信先の相手が電話機を使用していなければ、その呼は通常の呼に変換されます。

注:

ウィスパーページ呼は、システム内の各人がブロックできます。ウィスパーページ呼をブロックするには、**WhisperOff** (ウィスパー・オフ) ボタンを押します。ウィスパーページがオフにされると、ウィスパーページの発呼者にはビジートーンが聞こえます。

別の内線で通話中の相手に、電話がかかってきているなどの重要なアナウンスを行うには

1. オフフック時に、**WhisperAct** (ウィスパー・オン) ボタンを押すか、あるいは ウィスパー・ページ機能特番 (FAC) をダイヤルし、内線番号をダイヤルします。

通話中の両者にビープ音が聞こえます。

着信先の相手にのみ、こちら側のアナウンスが聞こえます。

2. 着信先の相手に話します。

その相手が通話を求める場合、相手が **WhisperAnbk** ボタンを押すと、こちら側の電話機で双方向の通話パスが提供されます。着信先の内線のもう一方の呼が保留にされ、その相手には会話が聞こえなくなります。呼が完了すると、通話相手は保留にした呼の回線ボタンを押すことができます。

ウィスパー・ページに応答するには

1. ウィスパー・ページを受信すると、ビープ音が聞こえてから、発信側の声が聞こえます。ウィスパー・ページの発信側と通話したい場合は、**WhisperAnbk** ボタンを押します。既存の呼は保留にされ、ウィスパー・ページの発信側との通話が可能になります。

2. ウィスパー・ページ呼が終わったら、保留にした呼の回線ボタンを押します。

表示機能の使用

以下の機能は、システム管理者によって 2420 Telephone の機能ボタンとして設定されている場合にのみ使用できます。

コールタイマーおよびタイマー

コールタイマー機能とタイマー機能は、通話の経過時間を測定します。

コールタイマー機能をアクティブにすると、ユーザーがこの機能をオフにするまで、すべての呼の通話時間が自動的に測定されます。

ユーザーが手動でオン / オフを切り替えるタイマー機能機能では、通話時間を測定する呼を個別に決定できます。

これらの機能を使用できるかどうかについて調べるには、システム管理者に問い合わせてください。

コールタイマー機能を使用して通話時間を測定するには

1. **[Call Timer]** (コールタイマー) ボタン (設定されている場合) を押します。
コールタイマー機能をオフにするまで、すべての呼の通話時間が自動的に測定されます。
2. コールタイマー機能をオフにするには、もう一度 **[Call Timer]** ボタンを押します。

タイマー機能を使用して個別の通話時間を測定するには

1. **[Timer]** (タイマー) ボタン (設定されている場合) を押します。
2. タイマーを停止し、表示画面を消去するには、もう一度 **[Timer]** ボタンを押します。通話時間が 3 秒間表示されます。

ディレクトリ

ディレクトリ機能では、呼処理システムディレクトリ内のユーザー名をダイヤルパッドで入力することによって、そのユーザーの内線番号を検索できます。

ディレクトリで名前を検索するには

1. **[Directory]** (ディレクトリ) ボタン (設定されている場合) を押します。
2. ダイヤルパッドキーで、選択する名前を次のように入力します。
名字、コンマ (,)、名前またはイニシャル
3. 続いて調べるディレクトリ名ごとに、**[Next]** (ツギヘ) ボタンを押します。**[Next]** ボタンは、システム管理者が設定する必要があります。
4. 新しい名前を検索するには、**[Directory]** ボタンを押し、手順 2 と 3 を繰り返します。
5. ディレクトリを終了するには、 を押します。

表示画面に表示された名前に電話をかけるには

1. ハンドセットを持ち上げます。
2. 名前が表示された状態で、[Make Call] (ヒュウジコール) ボタン (設定されている場合) を押すか、あるいは [Make Call] ボタンが電話機にない場合は、 を押してからダイヤルパッドで番号をダイヤルします。

注:

ハンドセットを置いたままで実行できます。このシステム機能が使用可能になっている場合は、[Make Call] ボタンを押すとスピーカホンが自動的にオンになります。

発信者確認

発信者確認機能は、通話中に着信呼の関連情報を表示します。

発信者確認機能を使用するには

1. [Inspect] (コーラーカクニン) ボタン (設定されている場合) を押します。
 2. 該当する回線ボタンを押します。
- 表示画面に情報が表示されます。現在の呼は接続されたままです。
3. 保留にした呼に戻るには、 を押してから、保留中の呼の回線ボタンを押します。

トーンとその意味

注：

以下の表に、着信音とフィードバックトーンごとの初期値を記載します。「意味」コラムの説明がご使用のシステムに対して当てはまるかどうかは、システム管理者にお問い合わせください。

着信音は、着信呼によって発生します。

| 着信音 | |
|---|--|
| 着信音 | 意味 |
|  | 別の内線からの呼 |
|  | 外線またはオペレータからの呼 |
|  | 別の内線からの優先コールまたは自動コールバックからの呼 |
| ◆ 短い着信音 (ピンという音) | 離席機能または不在転送機能がアクティブになっているため、ユーザーの電話機から別の電話機に転送されている呼 |

フィードバックトーンとは、ハンドセット、ヘッドセットまたはスピーカーから聞こえるトーンのことです。

| フィードバックトーン | |
|--|--|
| トーン | 意味 |
|  ビジー | 毎分 60 回繰り返される低音。このトーンは、ダイヤルした番号が通話中であることを示します。 |
|  キャッチホン リングバック | 低い音の信号が最後に付くリングバックトーン。このトーンは、着信先の内線が通話中であることを示します。被呼者には、キャッチホントーンが聞こえます。キャッチホンリングバックトーンが聞こえた場合、自動コールバックをアクティブにすることができます。 |
|  確認 | 3 回の短い断続音。このトーンは、システムが機能のアクティブ化またはキャンセルを受け入れたことを示します。 |
|  カバー | 1 回の短い断続音。このトーンは、呼が別の内線に転送され、カバレッジユーザーによって応答されることを示します。 |

| フィードバックトーン | |
|---|--|
| トーン | 意味 |
|  | ダイヤル 連続音。このトーンは、ダイヤルを開始できることを示します。 |
|  | 割り込み / タイムアウト 交互に鳴る高音と低音。このトーンは、ダイヤルのエラーまたは要求したサービスが受け付けられなかったことを示します。あるいは、ハンドセットを持ち上げてから、または前の数字をダイヤルしてから事前設定した時間（通常は 10 秒間）内に続く番号がダイヤルされなかったことを示します。 |
|  | リコールダイ ヤル 3 回の短い断続音に続く一定の発信音。このトーンは、要求した機能をシステムが受け入れたことを示します。ダイヤルを開始できます。 |
|  | リオーダ 毎分 120 回繰り返される速いビジートーン。このトーンは、すべてのトランクがビジーであることを示します。 |
|  | リングバック 毎分 15 回繰り返される低音。このトーンは、ダイヤルした番号の着信音が鳴っていることを示します。 |

2 / 2

索引

数字

| | |
|----------------------------------|----|
| 200A アナログ (U.S.) 補助インターフェースモジュール | 9 |
| 201A レコードインターフェースモジュール | 9 |
| 2420 Telephone のコンポーネント | 10 |
| 20A スタンド | 9 |
| 2420 Telephone | |
| 個人用ディレクトリ | 22 |
| サポートされる言語 | 51 |
| 着信音 | 60 |
| 表示機能 | 58 |
| フィードバックトーン | 60 |
| 2420 Telephone の表示画面 | 11 |

A

| | |
|--------|----|
| AD ボタン | 52 |
| AGC 機能 | 43 |

C

| | |
|---------------------------|--------|
| [Call (コール)] ソフトキー | 35 |
| [Case (シフト)] ソフトキー | 28, 40 |
| [Contrast (コントラスト)] 機能ボタン | 46 |

D

| | |
|--------------------------------|----|
| [Display Mode (ヒュージモード)] 機能ボタン | 47 |
|--------------------------------|----|

E

| | |
|-----------------------|----|
| [Erase (ショウキョ)] ソフトキー | 49 |
| EU24 拡張モジュール | 9 |
| EXIT ボタン | 11 |

H

| | |
|-------------|----|
| HEADSET ボタン | 11 |
|-------------|----|

L

| | |
|------------------------------|----|
| [Label (ラベル)] ソフトキー | 37 |
| [Language (ケンゴ)] 機能ボタン | 51 |
| [Log Setup (ログセットアップ)] 機能ボタン | 47 |
| [Log (ログ)] ソフトキー | 36 |
| LWC | 55 |

M

| | |
|----------|----|
| MUTE ボタン | 11 |
|----------|----|

O

| | |
|------------------------|--------|
| [Option (オプション)] ソフトキー | 42, 46 |
|------------------------|--------|

P

| | |
|---------------------|----|
| [Play (サイセイ)] ソフトキー | 44 |
|---------------------|----|

R

| | |
|-----------------------------------|----|
| [Ring Pattern (ヨビダシオンパターン)] 機能ボタン | 43 |
|-----------------------------------|----|

S

| | |
|-------------------------|----|
| [Self Test (テスト)] 機能ボタン | 50 |
| SPEAKER ボタン | 11 |

T

| | |
|--------------------|----|
| [Test (テスト)] ソフトキー | 50 |
|--------------------|----|

あ

| | |
|-------------|----|
| 安全について | 10 |
| インデックス機能 | 25 |
| ウィスパーページ | 57 |
| エントリの削除 | 29 |
| オプション | 43 |
| 画面コントラスト | 46 |
| 言語 | 51 |
| コールセンターモード | 47 |
| 自己診断 (テスト) | 50 |
| 消去 | 48 |
| 全消去 | 48 |
| 短縮ダイヤル表示維持 | 49 |
| 着信音パターン | 43 |
| 着信時ランプ点滅 | 44 |
| 着信表示 | 44 |
| 電話画面表示 | 45 |
| 表示モード | 47 |
| ログ設定オプション | 46 |
| オプション画面 | 42 |
| ナビゲートする | 43 |
| 音量コントロールボタン | 11 |

か

| | |
|---------------|-----------|
| 会議機能 | 21 |
| 回線 / 機能ボタン | 11, 15 |
| 概要 | 7 |
| 画面コントラスト | 46 |
| 画面コントラストレベル | 48 |
| グループ聴取機能 | 9 |
| 言語オプション | 51 |
| 呼 | |
| 応答する | 17 |
| 会議する | 21 |
| スピーカホン | 19 |
| スピードダイヤル | 18 |
| 転送する | 20 |
| 発信する | 18 |
| 保留にする | 18 |
| リダイヤルする | 19 |
| 交換機で設定される特定機能 | |
| ウィスパーページ | 57 |
| コールパーク | 53 |
| コールピックアップ | 54 |
| システム短縮ダイヤルボタン | 52 |
| 伝言呼 | 55 |
| 離席機能 (SAC) | 56 |
| コール ID | 30 |
| コールアピアランス回線表示 | 15 |
| コールセンター機能 | 8 |
| コールセンターモード | 8, 13, 47 |
| ボタン表示 | 48 |
| コールタイプ | 33 |
| コールタイマー | 58 |
| コールパーク | 53 |
| コールピックアップ | 54 |
| コールログ | |
| エントリを保存する | 36 |
| セットアップする | 46 |
| 表示する | 35 |
| コールログ画面 | 29 |
| コールログ機能 | 35 |
| コールログサマリ画面 | 30, 32 |
| コールログ詳細画面 | 33, 34 |
| 呼処理機能 | 17 |
| 呼処理ボタン | 11 |
| 個人用ディレクトリ | 22, 26 |
| 個人用ディレクトリ呼 | 18 |

さ

| | |
|------------------|---|
| サポートされるオプションデバイス | 9 |
| サポートされるヘッドセット | 8 |

| | |
|------------------|----|
| 自己診断 (テスト) オプション | 50 |
| 自己診断モード | 50 |
| システム短縮ダイヤルボタン | 52 |
| 自動ゲインコントロール機能 | 43 |
| 自動ダイヤリング | 52 |
| 消去オプション | 48 |
| ステータスアイコン | 16 |
| スピーカホン機能 | 19 |
| スピーカホン通話 | 19 |
| 全消去オプション | 48 |
| 全消去機能ボタン | 49 |
| ソフトキー | 11 |

た

| | |
|-------------------|--------|
| タイマー | 58 |
| ダイヤリングにおける決まり | 26 |
| ダイヤルパッド | 11 |
| 短縮ダイヤルエントリの追加 | 26 |
| 短縮ダイヤルエントリの編集 | 28 |
| 短縮ダイヤル画面 | 22 |
| ナビゲートする | 24 |
| 短縮ダイヤル表示維持オプション | 49 |
| 短縮ダイヤル表示維持画面 | 49 |
| 短縮ダイヤルリスト | 25, 29 |
| インデックス機能 | 25 |
| エントリを追加する | 26 |
| エントリを編集する | 28 |
| コールログのエントリを保存する | 36 |
| 短縮ダイヤルリストのエントリの削除 | 29 |
| チェックリスト | 12 |
| 着信音 | 60 |
| 着信音パターン | 43 |
| 着信時ランプ点滅オプション | 44 |
| 着信表示オプション | 44 |
| 着信表示機能ボタン | 44, 45 |
| ディレクトリ | 58 |
| ディレクトリ機能 | 22 |
| 転送機能 | 20 |
| 電話画面表示オプション | 45 |
| トランク ID | 15 |

な

| | |
|---------------|--------|
| 内線指定コールピックアップ | 54 |
| ナビゲートする | 32, 34 |

は

| | |
|-------|----|
| 発信者確認 | 59 |
| 発信者表示 | 15 |
| 表示機能 | 58 |

| | |
|-------------|----|
| コールタイマー | 58 |
| ディレクトリ | 58 |
| 発信者確認 | 59 |
| 表示モードオプション | 47 |
| フィードバックトーン | 60 |
| 不在転送 | 53 |
| ホーム画面 | 13 |
| ページをナビゲートする | 14 |
| ボタン | 11 |
| 保留機能 | 18 |

ま

| | |
|-----------|--------|
| メッセージサービス | 55 |
| メッセージの再生 | 22 |
| メッセージランプ | 11, 22 |

や

| | |
|-------------|----|
| 矢印キー | 11 |
| ユーザー設定オプション | 43 |
| ユーザークリックリスト | 12 |

ら

| | |
|---------------|----|
| ラストナンバーダイヤル機能 | 19 |
| ラベル | 39 |
| ラベル操作画面 | 37 |
| ナビゲートする | 38 |
| 離席機能 (SAC) | 56 |
| リダイヤル機能 | 19 |
| コールログエントリの保存 | 36 |
| ログセッティオプション | 46 |

